

「希望の星」

作 松島寛和

登場人物

坂本美咲（こはる） 15歳 家出少女の中学生
小林綾乃（ちえり） 18歳 外語大を目指す浪人生
土田愛美（かえで） 17歳 学校からドロップアウトしかけた女子高生
井上亜由美（ゆうり） 17歳 行き場のない最貧困女子
清水優花（いちご） 20歳 美容師を目指すフリーター
三浦（旧姓太田）茜（まい） 21歳 マイルドヤンキー主婦

中野智子 37歳 風俗店経営
佐藤祐介 32歳 風俗関係のスカウトマン 少女たちからパパと呼ばれる
先生と呼ばれる男 年齢不詳
吉永浩樹 23歳 フリーター
夏目武志 23歳 フリーター

場面

風俗店グループ「しるく女学園」系列の店舗とその界限

現在「こはるの場合」

某地方都市の裏通り。

足早な人たち

街角に「愛のしるし」が流れている。

萌えな衣装の女の子が数人、手にラミネートを持って立っている。

よく見ると、歩いているのは男ばかり。

女の子は男たちに

「お散歩いかがですか？」

「観光案内いかがですか？」

「一緒に遊びませんか？」

「ねえ、何処かに連れてってよ」

などと声をかけている。

こはる

観光案内いかがですか？

武志

観光案内？

こはる

あの、この辺の案内を。

武志

ああ。

浩樹

名前なんての？

こはる

こはるです。

武志

いくら？

こはる

ああ、あの。お二人一緒だったら40分5000円。60分だと8000円。

武志

どうする？

浩樹

いいよ。別に。

武志
こはる
ああ、じゃあ、お願いします。
時間は？

武志
ああ、じゃ、60分で。

浩樹
ちなみに90分だといくら？

こはる
1万円です。

浩樹
どうする？ 90分いつとく？

武志
え？

浩樹
いや、ほら、わかんないじゃんどうなるか。

武志
ああ、うん、お前がそれでいいならいいけど。

浩樹
じゃ、やっぱ90分で。

こはる
ありがとうございます。前金で1万円いただきます！

街へ飛び出す3人。

武志
どこ行く？

こはる
えー？

浩樹
えーじゃないよ。観光案内してくれるんだろ？ どっか楽しいとこに連れてってくれよ。

こはる
じゃ、ゲーセン！

ゲームセンター。

UFOキャッチャーで遊ぶ3人。

プリクラを撮って、レースゲームで遊んで、ゲームセンターを満喫している。
その姿は、普通の友人同士が普通に遊んでいるように見える。

浩樹
楽しかったー。

武志 (こはるに) 次はどうする？

こはる えー？

浩樹 ちょうどあと1時間くらいあるし、カラオケは？

武志とこはる いいねえ！

カラオケボックス。

なんか、今時のボカロの曲かなんかを熱唱する武志。
終わって

こはると浩樹 いえーい！

武志 もう曲が入ってねえし。どんどん入れろって。(デンモクを見ている)

浩樹 ねえ、こはるちゃんってさ、いくつ？

こはる 15。

浩樹 え。

こはる あ、うそうそ。18。いや、19。

浩樹 今言ったじゃん。15って。なにそれ。わか。

武志 それってさ、こういう仕事していいの？ その年齢って。

こはる うーん。

浩樹 いいんだよ。これはお散歩なんだからさ。何がダメなんだよ。

武志 あ、そっか。そうだな。お散歩だもんな。全然いいな。

浩樹 中学生なの？

こはる うーん、わかんない。

武志 また一緒に遊ぼうよ。あそこにいけばいる？

こはる うん。

武志
こはる
曜日とか決まってる？
うーん、特には。

こはるの電話が鳴る。

電話
こはる
こはるちゃん。そろそろ時間だよ。
(電話を切って) 時間だから。

こはるの独白。

こはる
あたしはこの店でこはるって呼ばれてますが、本当の名前は坂本美咲って言います。父とか友達のみーちゃんって呼んでました。あたしはまだ新人です。新人のお金は安いです。40分で5000円。そのうち3千円をお店に渡さなくてははいけません。残りの2000円があたしのお給料です。もし指名してもらえたら、その指名料はあたしにもらえます。早く指名がもらえるように頑張りたいです。

事務所の待合室。

中央にテーブル。

ちえりとかえでがいている。

ちえりは単語帳をみている。

かえでは鏡を見ながらマスカラをつけている。

こはる
かえで
おつかれさまでした。
あー。おつかれー。

こはる、所在無げに座る。

かえで どこ行ってきた？
こはる え？
かえで えじゃねーよ。どこ行ってきたの？
こはる あ、ゲーセン？
かえで ああ。
こはる それと、カラオケ。
かえで いくらもらった？
こはる ん？
かえで オプション。
こはる いや、別に。
かえで もらわなかったの？ うわ。ばっか。
こはる え？ もらうんですか？
かえで あったりまえじゃん。カラオケオプション2000円。
こはる えー。
かえで だってそうじゃん。あたしたちみたいな若い女の子と個室に入れんのよ。2000円くらい安いっしょ。
こはる ああ、そっか。
かえで 次からもらいなよ。ちゃんと。オプションは全額女の子がもらっていることになってっから。
こはる そうなんですか？
かえで だって。わかんないじゃん。お店。だし、金額も自分で適当につけていいんだよ。もっともらえそうだって
おもったらふっかけてたらしいよ。相手見て。

かえで

(小声で) 感じ悪い。

ちえり、かえでたちの話し声がうるさかったのか、イヤフォンをつけて、また単語帳を見る。

こはる あたし、そんな、金額なんかつけられません。
かえで だいたいでいいんじゃないの？ カラオケ2000円。手を繋いだら2000円。ファミレス行ったら2000円。しかも食事代はお客様持ち。
こはる すごーい。
かえで あたしたちは仕事でやってんだから、もらうものはきっちりもらわないとね。こっちもその分金かけてんだから。(念入りにマスクラ)

パパと先生が登場。

パパ 三人ともおつかれさまー。今日の分のお給料だよ。よくがんばりました。
かえで (先生から封筒を受け取って) あざーっす。
こはる (先生から受け取って) ありがとうございます。
ちえり (先生から封筒を受け取ると、中身を確認して) あざっす。

ちえり、そのまま荷物を持って帰る。

かえで 感じ悪ー。
パパ あ、こはるちゃん、今日のお給料から5000円、パパさん貯金を抜いたから。
こはる あ、ありがとうございます。
パパ おい、いくらたまってる？ こはるちゃんのパパさん貯金。
先生 あ、多分、3万くらいですかね。
パパ まだ3万かー。なかなかたまらないね。こはるちゃん。
こはる はい。
パパ 大丈夫。コツコツ働けばお金は必ずたまるからさ。お金は嘘つかない。
こはる はい。がんばります。

先生
パパ
こはる
パパ
こはる
こはる
パパ
かえで
パパ
かえで
パパ

でも、こはるちゃんは寮暮らしでそのお金もありますから。ケータイ代の支払いもたまってますし。そっか、こはるちゃん、携帯代お店が立て替えてるんだっけ。はい…すいません。

もしかして、この仕事だけじゃ、思ったほど稼げねーなとか思ってたんじゃない？ どう？

はあ、まあ。

実は、もう一つの他の仕事があるんだけどさ、こはるちゃんならそっちでも結構いけるかも。えー。別の仕事ってなに。こはるばかりずるい。

あ、かえでちゃんもやる？

やるに決まってるじゃん。いい仕事なんですよ？ やるよ。

じゃ、二人ともぼくについておいで。

現在「ちえりの場合」

イヤフォンをしながら足早に帰るちえり。
行き交う人々。

駅のホーム。

電車が到着してみんな乗り込む。

そこそこ混み合う車内。

レールの音。がたんごとん。

電車の加速する音。ふわーん。

その音がやがてリズムを作り出す。

ちえり

(ラップ) 超だりい 1日の終わり

朝から晩までおつかれさん

もうたくさん 本気でやらなくちゃ

抜け出せないあたしは予備校生

朝から学校

電車でも勉強

単語帳を読む二度三度

兄はニート ママが説教

思い出すだけでもああしんど

将来は渡米 膨らむ夢

目指すは難関外語大

現役合格したかった

マジで朝まで勉強超眠かった

本当はイケてるはずだった
でも、みごとに滑つてもう一年

アナウンス
間も無く、電車が到着いたしまーす

電車が駅に到着。
電車を降りて家路を急ぐ人々。

ちえりが夜道を歩いている。

ちえり
ほんの一息 ぼんやり歩き

帰り道 すぐに家に着き
玄関がちゃ

ママ
おかえりなさいい。

ちえり
ご飯は？
食べてきた。

ママ
ちえり
お風呂にする？
後ででいい。

ちえり、自分の部屋に入る。
荷物を置いてベッドに座る。
ため息。

ちえり
お兄ちゃん大学一回生、三年目留年の一回生

ありえない 学費 親が支払い
それでひきこもるのはお門違い
でも仕方ない 本来 甘やかしたい
パパもママもお兄ちゃんが超かわいい

ママがちえりの部屋をノックする。

綾乃ちゃん？

ママ

(客席に向かつて) あ、綾乃ってあたしのこと。お店ではちえり。家では綾乃。

ママ

綾乃ちゃん、ちよつといい？

ちえり

いいよ。

ママが綾乃の部屋に入ってくる。

ママ

綾乃ちゃん。

ちえり

なに？

ママ

ママね、今日、コロッケ作ったの。

ちえり

あ、ごめん。食べてきちゃった。

ママ

ううん、いいのよ。明日の朝、残ってるから食べてね。

ちえり

うん。ありがと。

ママ

……。

ちえり

なに？

ママ

うん。最近、綾乃ちゃん、元気ないかなって。

ちえり

え？ そう？

ママ
ちやうから。
あんまり無理しないでね。ママ、綾乃ちゃんまでおかしくなったら、もう、どうしていいかわかんなくなっ

ちえり
うん。

ママ
お勉強がんばってる？

ちえり
うん。

ママ
成績は？

ちえり
大丈夫だよ。いい感じだから。

ママ
そっか。

ちえり
……。

じゃ、ママ、もう寝るから。お風呂わかしてあるから冷める前に入っ

ママ
うん。ありがと。

現在「こはるとかえでとJKリフレ」

無味乾燥な診察室のような部屋がカーテンで仕切られている。

パパ、先生、こはるとかえで。

先生が寝ていてかえでが足で踏んでいる。

先生
痛い痛い痛い。

かえで
我慢しなよー。これくらいで悲鳴上げんじゃねーつつの。

先生
いてえ。

かえで
マジうけるんだけど。

パパ
まあまあ。そのくらいにしてあげてよ。あんまりやると今日の仕事できなくなるから。

かえで
しょうがねえな。これくらいにしてやんよ。

パパ
ここでお客様のマッサージしてあげて、そんで40分10000円。女の子の取り分は60パーだから6

000円。どう？

かえで
超楽勝じゃん。そんなんでもいいわけ？

パパ
いいのいいの。

かえで
観光案内より全然楽じゃんこつちが。

パパ
全然いいっしょ。やってみる？ JKリフレ。

かえで
えー。どうする？ こはる。

こはる
え？ あたし？

かえで
あたし、こはるちゃん次第だなー。

パパ
なんでフェイントなんだよ。いま、全然いいって言ってたっしょ。

かえで
言ったけどさー。こはるどうする？

こはる
うーん。

パパ　簡単なお仕事だよ。こはるちゃんなら出来るって。きっと常連さんでもできるし。そしたら結構生活楽になるよ。

こはる　うーん。

パパ　ほら、かえでちゃんはこはるちゃん次第ってよ。こはるちゃんやろうよ。一緒に頑張つてステップアップしようよ。

こはる　うーん。

パパ　お散歩とリフレを掛け持ちしてる子も結構いるんだよ。お金稼げるよ。先生、先月一番稼いでる子っていくら？

先生　へ？

パパ　へ？じゃねえよ。先月一番稼いでる子がいくらだったのか聞いてんの。

先生　ああ、だいたい20万くらいじゃないですかね。

かえで　に、にじゅうまん！

パパ　ね、すごくない？　放課後ちよつと仕事するだけでそんな金額稼いじゃってさ。お散歩とマッサージだけで。　

かえで　すげえ。こはるちゃん、やろうよ。一緒に。

パパ　どうする？

かえで　あだし、やります。

パパ　決まりだ！　じゃ、二人とも写真撮っちゃお。先生。撮影。

先生　あいよ。(スマホで写真を撮りはじめる)

パパ　あとでフォトショでかわいく見えるようにチョイチョイしとくから。二人ならすぐがいいお客さんついてくれるよ。一緒にいっぱい稼ごうね！

こはるとかえで、かわいくポーズを決めながら写真を撮影されている。

こはる (独白) 毎日お昼2時くらいに出勤。事務所でおかし食べたりジュース飲んだりしてから街に出ます。最近はお散歩してくれる人が増えてきたし、寒かったりちよつとしんどい日はリフレに入ればいいんで、結構いい感じでお金稼いでます。お客さんはみんないい人ばかりです。キモい人はあんま来ません。リフレのお客さんはちよつと肩揉んだら、もういいよって言ってくれます。本当にいい人ばかりです。

街角で。

浩樹 こんにちは。

こはる あれ？

浩樹 覚えてる？ この前、ここで。

こはる ああ。

浩樹 お散歩。

こはる え？

浩樹 60分。いくらだっけ？

こはる 1万円。

浩樹 あれ？ 値段上がった？

こはる あ、新人割終わったんで。

浩樹 そっか。……じゃ、これ (財布から1万出す)

こはる ありがとうございます。どこ行きますか？

浩樹 じゃ、ゲーセン。

こはる いいですよ。

浩樹 あの、……手、繋いでもいい？

こはる 2000円です。

浩樹 あ、(財布から千円札を出して渡す)

二人、手をつなぐ。

こはる

じゃ、行こ。

浩樹

うん。

雑踏。歩く二人。

ゲームセンターに入るが、浩樹はぎこちないままだ。

浩樹

カラオケ行こうよ。

こはる

え？

浩樹

カラオケ。この前行ったじゃん。あそこ。

こはる

追加でお金かかっちゃうけど。

浩樹

いくら？

こはる

2000円。

浩樹、財布からお金を出す。

こはる

(受け取って)ありがとうございます。

カラオケボックス。

部屋が狭い。

浩樹

あれ、この前の部屋より狭いね。

こはる

そうかな。

浩樹

隣に座ってもいい？

こはる

え？ ……いいよ。

浩樹、こはると並んで座る。

こはる

……歌わないの？

浩樹

あ、うん。

こはる

……。

浩樹

あかさ。……おっぱい見せてくれる？

こはる

え？

浩樹

見せてよ。いいじゃん、おっぱいくらい。

こはる

いや、あたし、そういうのはやってないんで。

浩樹

追加でいくら払ったら見せてくれるの？ いくら？

こはる

やってないんです。

浩樹

じゃあさ、ちよつとでいいからさ。触ってくれないかな。

こはる

……。

浩樹

いいだろ。今日、もう1万4千円わたしてるじゃん。結構な金額だよ。ちよつとくらいさわってくれてもい

いじゃんか。

こはる

いや。

浩樹

いやじゃねえよ。ほら、触れよ。

浩樹、こはるの手を握って股間へ持って行こうとする。

こはる、抵抗する。

武志

(突然) こはるちゃんが危ない！ トウ！

武志が颯爽と現れる。

武志 そのこの自宅警備隊！ こはるちゃんから手を離さない！

浩樹 誰だお前は！

武志 わたしは……わたしも自宅警備隊だ！（浩樹にパンチ）鉄拳制裁！

浩樹 しぎやぴー！（ふっとぶ）

武志 （こはるの手を取って）さあ、逃げよう。

こはる （うっとりして）はい！

手に手を取って逃げる二人。

まるで「卒業」のラストシーンのよう。

やんやの喝采。

こはる わたしは彼と無我夢中で逃げました。必死で必死で必死で必死で逃げました。

肩で息をしている二人。

武志 ああ、もうここまで逃げてきたら大丈夫だ。

こはる （武志の顔を見て）あれ？ あなた。確か。

武志 え？ なに？

こはる さっきのあの人の友達じゃなかったっけ。

武志 （しどろもどろ）そう、そうなんだよ。そうなんだけどさ。だからあいつ怪しいと思って後をつけてんだ。危なかったね。ぼくが助けに入らなかつたら。

こはる そっか。助けてくれたんだ。

武志　　うん。だって、おれ、こはるちゃんが気になっててさ。だからずっと心配してたんだよね。こはるちゃんのこと。

気づくとあたりはやたらとカップルが多い。

武志　　あれ？　ここ、あれ？　ホテル街じゃん。あれ、やっぱ。変なところ入り込んだね。

こはる　ほんとか。

武志　　こはるちゃん、行ったことある？　ラブホ。

こはる　え？

武志　　あ、ごめん。変なこと聞いちゃった。……ちよつと寄ってく？

武志、こはるの手を引いてホテルに入る。

こはる　　あたし、この人とならホテルに行ってもいいなあって思いました。特に抵抗はありませんでした。昔からこういうことするときには、目をつぶって子供の頃の思い出を頭に浮かべます。お母さんとパンを焼いた時の思い出。小麦粉にお水を混ぜて一生懸命こねます。全身を使って、小麦粉をこねて、こねて、柔らかくなった頃には全部終わっているのです。

武志がベッドに座っている。

武志　　ねえ、いくら？

こはる　　え？

武志　　こはるちゃん、今日、おれ、いくら払ったらいい？

こはる　　なにが？

武志　　セックスのお金。

こはる　　なんで？
武志　　……なんでって何？
こはる　　あ、……わかんない。……2000円？
武志　　2000円？　うそ。そんだけでいいの？
こはる　　あ、いや。……うん。2000円でいい。
武志　　じゃ、これ（財布からお金を出す）また会ってくれる？
こはる　　……わかんない。
武志　　おれ、またこはるちゃんと会いたいなあ。また会おうよ。……あ、ホテル代は俺が出しとくわ。
こはる　　……。

現在「デリバリーヘルス しるく女学園」

ちえり。

ちえり 予備校の学費は全額自分で出しました。もちろん一気には無理なので、毎月毎月決まった額を払わなければいけません。だいたい月に8万くらいかな。それと、ちよっと稼げた時は、お母さんにお小遣いをあげてます。お母さんはお兄ちゃんの世話でいっぱいになって、なんか悲惨です。お母さんはお金の出処を知りません。くわしく聞いてもきません。もし聞かれたら、家庭教師をしてるんだって答えるつもりでいます。きっとお母さんはふーん、そうって言って、それ以上は突っ込んでこないと思います。

女の子たちの待機場。

ゆうり、いちご、まいがいる。

ちえり お客さんはネットを見てからお店に電話をかけてきます。そして指名された女の子がホテルに行って、お客にサービスします。60分で15000円です。そのうち8000円が女の子の取り分です。リフレやお散歩だとなかなか一位取れないけど、ここだと楽に一位になります。お店もあたしに優先的にお客を回してくれます。

ちえり、待機場のテーブルに参考書を開いて勉強を始める。

ゆうりといちごはケータイを見ている。

まい ねえあんたさ、あれやってる？

いちご なんですか？

まい パパ貯金。

いちご やってますよ。

まい
ゆうり
まい
まい
いちご
まい
まい
いちご
まい
まい
いちご
まい
ゆうり
いちご
ゆうり
まい
まい
いちご
まい
まい
いちご
まい
わ。
まい
いちご
まい
まい
いちご
まい

……あれさ、金だぶついてると思うんだけど。どう思う？
えー？ どういう意味ですか？

この前までいたじゃん、あのギャルっぽい子。
みゆちゃん？

名前は知らんけど。あの子、ぶっちったらしい。
ふうん。

そこまではいいんだけどね。結構預けてたらしいのよ。パパ貯金。
いくらですか？

これはさ、あたしじゃなくてゆうりが聞いた話だけさ。多分、20万くらい。
え！

それが一人や二人じゃないらしいんだよ、そういう子。
(ゆうりに) まじで？

……うわさですけど。
親バレかな。

わかんない。

そんでき、その金って、パパが持つてるわけじゃん。そのまま。
そうね。
どうするのかな。そのあと。

さあ。
あたしさ、ゆうりからこの話聞いた時にピンときたんだよね。あの男(もったいぶって)ネコババしてる

えー。ネコババー。

声がでけえよ。

ま、どっちにしろあたしとは関係ない話だな。
関係なくねえよ。

いちご　だつてそれって他人のお金じゃない。あれこれ考えたところであたしたちのものになるわけじゃなし。
まい　それを言うならパパの金でもないじゃんよ。

いちご　だから？

まい　だから……。あの金、計算してみるとかなりの額になるんだよ。毎日結構な人数が5000円とか預けてんだぜ。あいつらちよるまかして自分のものにしてんだつて。

いちご　ちよるまかそうとしてやってるつて？

まい　じゃ、どうしてやってんだよそんなこと。

いちご　あたしたちのためにやってくれてるんじゃないの？

まい　バカ。んなわけねえだろ。最初から金目当てでやってるに決まってるよ。

いちご　えー。

ゆうり　まいさん、それは言い過ぎですー。

まい　おいお前、こっちの味方じゃなかったのかよ。

ゆうり　あたしはどっちの味方でもないですよ。それに、あたしたちって経済感覚ないんで、預かってもらった方があればあるだけ使っちゃうから。

いちご　言ってるー。

ちえり　（独白）この、こっち側に座っているゆうりという子ですけど、前に待機場で二人きりになった時、ここに来るまでの話を聞いたことがあります。壮絶、かつ、悲惨な話でした。

ゆうり　（独白）あたしはお父さんの顔を知りません。お母さんには二人の彼氏がいました。

ヤクザ風の男登場。

ヤクザ風

おうヨシ子、遊びに来たぞ。しばらくぶりやのう。わしゃ、もう一昨日からビンビンじゃ。

ヨシ子

亜由美ちゃん（ゆうりのこと）、いい子だから押入れに入ってなさいね。

押入れに閉じ込められるゆうり。

ゆうり あたしはおじさんがうちに來てる間、押入れにこもって、懐中電灯で繰り返しサーラームーンを読みました。そのせいで視力がガンガンに落ちました。

ヤクザ風 なにゴチャゴチャ言うてるんじや！ 銭を出さんかい！ 銭！

ヨシ子 あんたみたいな男に出してやる銭なんかウチにはないんよ！ なんよあんた、やることやったらすぐに銭の話なんかして！ 出てって！ 出てって！

ヤクザ風 なんじや、女のくせに。ええから銭を出さんかい！（ヨシ子を平手打ち）

ヨシ子 （殴られて）きゃあ。……あんた、やる気ならあたしもとことん相手するよ！（ファイティングポーズで相手の男をボコボコにする）

ゆうり お母ちゃんは女子ボクシングの選手でした。

ヤクザ風 覚えてやがれ！（逃げていく）

ヨシ子 （ゆうりを押入れから出して） 亜由美ちゃん。だーれもお母ちゃんのことを好いてくれる人はおらんねえ。お母ちゃん、さみしいよ。

ゆうり あたいはお母ちゃんのこと好きだよ。

ヨシ子 おお、嬉しいねえ。そんなこと言うてくれるのは亜由美ちゃんだけだよ。

ゆうり （独白）お母さんが私の言葉にそれほど喜んでいないのは、あたしにもなんとなくわかっていました。亜由美ちゃん。お出かけしようか。

ゆうり お母さんはそうしてもう一人の彼氏の家に行きます。

メガネの男 （玄関のドアを開け）ヨシ子さん、どうしたんですか。

ヨシ子 顔が見たくなくて。

メガネの男 ほつぺたが腫れている。どうしたんですか？（ヨシ子の頬に手を触れる）

ヨシ子 （触られた瞬間に）痛い。……でも大丈夫。なんでもないんです。

メガネの男 大丈夫ではありませんよ。どうぞ。中に入って。またあの男ですね。どうして別れてしまわないんです。だって（目を伏せる）

ヨシ子さん（肩を抱く）

ヨシ子とメガネの男がゆうりを見る。

ヨシ子

亜由美ちゃん、ちよっとだけ押入れに入ってようね。(とゆうりを押入れに閉じ込める)

ゆうり

ちよっとだけと言いながら、あたしはここに来たら押入れの中から出ることはありませんでした。トイレの

時だけ、こっそりと押入れを開けて、気づかれないように行きました。ある日、メガネの男の家にいたら、あの怖いおじさんが怒鳴り込んできました。

ヤクザ風

(ラリった感じで) おら、お前かー。ヨシ子の男は。

メガネの男

誰だお前は。失礼じゃないか。

ヤクザ風

何いうとんねん。お前が失礼じゃ。俺の女と何やっとなねん。いてまうど！

メガネの男

あぶない！(と包丁でヤクザ風の男を刺す)

ヨシ子

きゃー！

ゆうり

あたしは押入れの中から見ていたので、どんなやり取りをしていたのか詳しいことはわかりません。とにかく

く、メガネのおじさんが怖いおじさんを刺しました。人が人を刺すのを初めて見ました。お母さんはあたしとメガネのおじさん連れて逃げましたが、すぐに警察につかまりました。それ以来メガネのおじさんとは会っていません。

ヨシ子

ねえ、亜由美ちゃん。あたしはこれから尼寺に行きます。これからはおばあちゃんと一緒に暮らしてね。

(ゆうりを抱きしめて) 我が子よ！

ゆうり

そうしてあたしの所からお母さんもいなくなった。

待機場に場面が戻る。

ゆうりとちえり。

ちえり

それって何年の時？

ゆうり

小5。

ちえり

ひよえー！

ゆうり　そのあと、中学にその近辺の援交を仕切ってる先輩がいたんで、その先輩から下着の売り方とか援交の仕方とか教わって、んであたしが先輩になったらそれを後輩に教えて。そうやって生き残る方法を次の世代に伝えて行くんです。

ちえり　ちよつと待って、その話ってまだ結構長くなる？

ゆうり　まだ全然はじまったとこですけど。

ちえり　……あたし、今日はもう上がろうかな。

ゆうり　そうですか。じゃあまた。

ちえり　（独白）この内容を1日で全部聞くのはかなりヘビーだった。この店にはこんな曰く付きの女の子が集まってくる。この中でまともな家庭で育ってきたのはあたしだけかもしれないなかつた。

現在「ちえりとこはる」

帰りの電車を待つホーム。

ちえり　例えば女の子が5000円を。パパ貯金するとして、10人なら1日あたり5万円。系列店の女の子全員に声をかけてるとしたらもつとだな。30人いたら15万か。だとすると一ヶ月30日で450万。……突然いなくなる子つて結構いるから、あの子らが言ってたのも案外出まかせじゃないかも。

こはるがキャリーケースを引いてやってくる。

こはる　（ちえりに気づいて）あ。

ちえり　あ。

こはる　ども。おひさしぶりです。

ちえり　あ、うん。……家、こっちだっけ？

こはる　いや、安い漫喫があつて。

ちえり　あ、そう。

こはる　先輩、時間ないですか？

ちえり　え？　なんで？

こはる　イオン行きましようよ。フードコートタダだし。

ちえり　あ、うん。

イオンのフードコート。

子供が走り回っている。

こはる　子供マジうざいわー。ここ、水とかタダでいいんですけど、いつきても子供いますよね。

ちえり 最近どうしてんの？

こはる え？

ちえり お店出てこないじゃん。ちっとも。

こはる ああ。

ちえり やめたの？

こはる やめてはないです。あたし今、住むところなくて。お店にケータイ借りてもらってて。だから籍だけ残してま

す。

ちえり あ、そう。仕事は？

こはる 援デリやってます。

ちえり なにそれ。

こはる あたしも知らなかったんすけど。先生が教えてくれて。

回想、ホテルの一室。

こはると武志。

部屋のチャイムが鳴る。

開けると先生が立っている。

武志 誰？

こはる お店の人だよ。

武志 なんで？

先生 (ずかずか部屋に入ってきて) 君ね。こはるちゃんとセックスしてるね？

武志 は？

先生 してますね？

武志 してません。

先生　嘘つくと話がややこしくなるよ。君はこはるちゃんとセックスしてるんだよ。何度も。日付をはつきりさせようか？　先週の水曜日。先々週は火曜日と水曜日。その前の週は……。

武志　わかりました。やりました。

先生　はい。では、当社の規則です。（紙を取り出して）ここ、声に出して読んでみて。

武志　（手渡された紙を読む）当店は風俗店ではありません。万が一アダルトなサービスの強要、またはそれに準ずる行為が発覚した場合は、違反金50万円をいただく場合があります。

先生　はい。では50万お支払ください。

武志　え？

先生　50万お支払ください。

武志　（こはるに）この人何言ってるの？

こはる　ごめんなさい。

武志　ごめんなさいってなに。

先生　今払える？

武志　払えないですよ。

先生　警察行くか？　強姦罪で実刑判決。

武志　いやあ。

先生　さあどうする？

武志　どうしましょう。

先生　目。ふたつあるじゃん。目は。一つ売っちゃう？

武志　あはは。

先生　あははじゃなくてさ。角膜って売れるんだよ。お釣りくるよ。どうする？　片目で暮らすか？

武志　……いやです。

先生　うそうそ。冗談だよ。仕事して返そう。働いて返せない額じゃないんだから。今日から、武志くんとこはるちゃんにはペアになってもらって、援助交際をやっていただきます。武志くんのお仕事は、援助交際の掲示板を細かくチェックして、お客になりそうな相手の選別と金額の交渉をすること。相手からきたメールにグツとくる返信をするのも武

志くんのお仕事ね。こはるちゃんは武志くんが見つつけてきたお客と寝てお金をもらう。相場はだいたい1万5000円から2万くらいかな。ごねる客がいて手間取ったらすぐに連絡して。誰かをよこすから。それで返済だけど、こっちには上りの半分をお支払いください。誤魔化そうとしたら怖い目にあうよ。いつの世も、正直者が得をする。はいこれ。(大きい財布を出す)

武志　　なんですかこれ。

先生　　オーナーから二人にプレゼント。おめでとうございます。ふたりはもう切っても切れないパートナーになりました。一つの財布を二人で使って、これからも二人の絆を深めてくださいとのことです。中にお祝い金が1万入ってるから。なんか美味しいものでも食べておいでよ。

武志　　あ、ありがとうございます。がんばろうね。こはるちゃん。

イオンのフードコートに戻る。

ちえり　　その仕事やばくない？

こはる　　まあ、やばい時もあるけど、彼がいてくれるんで平気です。

ちえり　　頼りになるの、そいつ。

こはる　　大丈夫ですよ。意外としっかりしてるんですよ。

ちえり　　どこ住んでるの、今。

こはる　　どこでもないですね。仕事でホテル行けば風呂にも入れるし、寝るだけなのに寮費払うのなんかなくて思っ。借金とかケータイ代とかあるし。だから今家ないっす。

ちえり　　その切っても切れないパートナーの家に泊めて貰えばいいじゃん。

こはる　　彼の家、実家なんで。

ちえり　　実家かよー。実家のやつが何やってんだよー。

こはる　　(ケータイみて) 神キター！

ちえり　　なにになに。

こはる　　今夜泊めてくれる神が降臨したんですよ。マジ来た今日ついてるわー。

ちえり どういうこと？

こはる ネットの掲示板で泊めてくれる人を探してたんですよ。

ちえり 男の人？

こはる そうですね。たまには女の神もいるみたいですけどね。あたしは会ったことないな。

ちえり やるの？ その人と。

こはる やらないですよ。何言ってるんですか。

ちえり でも、迫ってくるんじゃないの？ 同じ部屋で寝てたら。

こはる そういうことしてこないから神なんですよ。

ちえり ……そんなものなの。

こはる あたしそろそろ行きます。駅前で待ち合わせなんで。(行きかけて)先輩、ラインのID交換しましょうよ。

ちえり え？ あ、うん。

こはる じゃ、ふるふるで。……なんか、先輩ってお姉ちゃんみたいで話しやすいですね。またお話してください。

ちえり あ、うん、いいよ。

こはる じゃ、また。

こはる、キャリアケースをガラガラ引いて行く。

あたしはその晩、パパ貯金のことが頭から離れなくて、勉強が手につかなかった。

現在「しるく女学園の待機場」

ちえりとまい。

まい この前入ってきた子いるじゃん。

ちえり え？

まい ギラギラした感じの。

ちえり ああ。かえでちゃんかな。

まい 知ってるの？

ちえり 知ってるというか。前いた店でも一緒に。

まい えー。そんなことってあるんだ。

ちえり っていうか。系列店なんですよ。女子高生はまずメイドカフェとかお散歩とかやって、その後リフレ行って、それからヘルスとかデリヘルに来るんです。

まい なるほど。少しずつ慣らしていくのか。あたしみたいなオトナだと、いきなりデリヘルなんだね。

ちえり ……ま、よくわかんないですけど。

まい あたしあの子、苦手なんだよねー。なんかさ、感じ悪いっていうかさ。

ちえり そうですか？

まい 「マジ、超ウケるー」って。全然うけねえっつーの。

ちえり ……。

まい あんたさ、いっつも何やってんの？ それ。

ちえり 勉強です。

まい なんて。

ちえり 受験するんで。

まい へー。受験。すっげ。賢いんだねー。

ちえり ま、そこそこですけど。

先生が入ってくる。

先生
ちえりちゃん。

ちえり
はい。

先生
ちよつと事務所までいい？

ちえり
あ、はい。

ちえり、参考書とノートを閉じて立つ。

事務所。

智子が座っている。

智子
どうも。初めまして。

ちえり
どうも。

先生
ちえりちゃん。こちら、オーナーの智子さんです。

智子
あんまりお店にこないから普段は。パパと先生にお店を任せっきりでね。

ちえり
そうなんですか。

智子
噂は聞いてるよ。がんばってくれてるみたいね。

ちえり
まあ、そうですね。

智子
指名1位が続いてるんだって。

ちえり
はあ。

智子
うん。あたしも元同業者だからわかんよ。1位を維持するのって大変。これからもお店をよろしくね。

ちえり
はい。

智子
お金欲しい？

ちえり え？

智子 頑張ってるから。お金が必要なのかなって。

ちえり まあ、それなりに。

智子 もうちよっと稼げる仕事があったら、どうする？ やる？

ちえり どんな仕事ですか。

智子 援助交際なんだけど。

ちえり 援助交際…ですか。

智子 本来ならちえりちゃんが全額持っていくてもいいんだけどさ。それだとほら、一人で全部やらなきゃなんないから。危ない場合もあるじゃない。しかもお茶ひいちゃった日は売り上げゼロだし。あたしたちのネットワーク使って確実にお客を回せば、ちえりちゃんなら一本2万から3万はいけるんだよね。

先生 危ない時は誰かをよこすから安全です。

智子 どう？ やってみたい？

ちえり ……考えときまず。

智子 ……ちえりちゃんはパパ貯金してないのね。

ちえり は。

智子 パパ貯金。どうしてしないの？

ちえり あたし、自分で管理できるんで。

智子 そっか。えらい。しっかりしてる。

ちえり 話ってこれだけですか？

智子 そうよ。考えといてね。援助交際。

ちえり 失礼します。…（独白）これ、こはるが言ってたやつだ。とうとう来た、あたしのところに。

待機場。

まいとかえでがいる。

かえで なんすかその話、超ウケるー。
まい そんなで、ただのバーベキューのつもりだったのに、なんかすんげー炎上しちゃって。そいつ前髪チリチリになつてんの。そんで前髪こっそりなくなったからさ、コンビニのバイトクビになつてんのそいつ。
かえで え、なんで？
まい 怖いじゃん、見た目。眉毛もなくなったからさ。顔つきやばくなって。
かえで やべー、それでクビって超最悪じゃないですか。ウケるー。
まい おかえりー。
ちえり あ、はい。
まい なんの話だった？
ちえり なんか、がんばれって。
まい ふうん。
かえで しっかし、今日も超暇っすね。全然電話こねえし。
まい まだ時間が早いし。これからじゃないの？ これから。

先生登場。

先生 まいちゃん。ご指名。準備して。(退場)
まい はい。(二人に) キタコレ。
かえで えーずるーい。
まい (カバンを持って) では、行ってくるでやんす。

まい退場。

かえで あー、あたしもこまめにブログ更新しようかなー。まいさんそういうとこマメなんだよなー。つつかマジで
今月超やべえ。仕事入らなかったらやべえわ。ねえ、ちーちゃんは？ 今月結構稼いでるでしょ。

ちえり まあまあ。

かえで あのさ。さつき、まいさんと話してたんだけど。パパ貯金、もらっちゃおうよ。

ちえり あたしあれやってないから。

かえで そうじゃなくて、もらっちゃうんだよ。とっちゃうの。

ちえり え？

かえで だって、おかしくない？ あれって女の子がもらうべきお金じゃん。でもさ、バックレる子がいるからさ、どんだんたまってるんだよ。お金が。だからそれをさ、横取りしちゃおうかって。

ちえり いやいや、ちよつと待ってよ。それって泥棒じゃん。

かえで ちがうよ。あのお金はそもそもあたしたちのお金みたいなもんだから。

ちえり そうか？

かえで ムカつくっしょ。なんでもかんでも店の好きにしゃがってさ。リフレ簡単だよ、ちよつと背中もむだけーとか言って。なんだよ、抜きやんねえと客つかねえじゃねえかよ。話が違うっつーの。そんで何が。パパさん貯金だ。ネコババやってんじやん。

ちえり ネコババって言うけどさ、かえでちゃんがパパ貯金おろしたいって言ったら返してくれるんだよね。

かえで ちよつとだけしかくんねーから。今持ち合わせがないとかなんとか言ってるさ。全額一気なんて全然なんだよ。やっぱやばくない？ それって。

ちえり うーん。

かえで パパ貯金はあの店長が管理してるらしいんだよね。お金はこのお店のどこかに隠してんだって。あれ、あんまり表に出せないお金だからさ、銀行に預けられないんだって。ねえ、聞いてる？

ちえり うん。……月に450万、年間だと5000万。……まさかね。

かえで ねえ、今日の仕事終わりにさ、まいさんと約束してるんだよね。ちーちゃんも話聞いてみない？

現在「深夜のマクドナルドで」

ポテトの揚がる音、ぴろり、ぴろり。
ちえりとかえで。

遅れてまいが入って来る。

まい　ごめん。延長入っちゃって遅くなった。んで、話ってしてくれた？

かえで　ざっくり？

まい　ざっくり。おっけおっけ。どう思う？

ちえり　え？

まい　パパ貯金。

ちえり　ああ、まあ。

かえで　あたしお腹すいちゃった。

まい　なんか買ってこいよ。

かえで　お金ない。

まい　ったく…（財布から小銭を出して）ほら。

かえで　やったー、お姉ちゃん超好きー。

かえで、レジに向かう。

まい　あんた、学費自分で出してんだって？

ちえり　ああ、まあ、一応。

まい　あたしんちも貧乏だったけどね。だけど学費自分でってのは正直厳しいわ。あんた偉いよ。
ちえり　そうですかね。

まい あのパパ貯金つてやつ、帳簿に載せられない金だから、現金管理してるみたいでさ。パパは女の子たちに信頼があるから、パパが預かるという名目にして、実際はあの智子っていうオーナーの懐に入ってる。……あんた、さつき智子さんに呼ばれたの、あれじゃない。援交の話じゃない？

ちえり え？ 違いますよ。

まい 嘘つかなくてもいいって。目ぼしい子にはガンガン行くんだからあの人。あたしら店舗に所属してる女の子もそうなんだけどさ、やばいのは援交やつてる子から巻き上げる。パパ貯金なんだよ。援交つてちよつと足りない子がやつてることもあるからさ。なんやかんや言いくるめて上がりをもめに回収してるんだ。

かえでがアップルパイをかじりながら帰ってくる。

まい (かえでを見て) なんてでめーしか食えないようなもん買ってくるんだよ！ 全員でつつけるようなものにしてしろよ！

かえで えー。あたしこれが食べたかったー。

まい おめーはいつつも自分の事ばつかだな。

かえで ちーちゃん。お姉ちゃんがこわいー。

ちえり はあ。

まい もういいよ。てめーはそれ食ってる。……どこまで話したっけ。

ちえり 援交からは多めに回収してるって。

まい そうだそうさ。だから、あの店の事務所には、結構な現金が置いてあるのよ。それをいただいちゃおうってわけ。

ちえり そんなことうまくいきますかねえ。

かえで いくいくー！

まい ……つつかさ、うまくいかせるしかなかね？

ちえり ……つつかさ、うまくいかせるしかなかね？ あたしたち、堕ちるところまで堕ちてるわけだしさ。ここから這い上がるには、ちよつとくらい無理しなきゃダメっしょ。

ちえり うーん。

かえで
まい
ちえり
ちえり
はい
ちえり
まい
ちえり
な。
かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

ちーちゃんもやろうよ。なんかおもしろそうじゃん。ルパンみたいで。あたしルパン好き。
ちえりはいくら欲しいの？
え？

まい
ちえり
まい
ちえり
な。
かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

いくら貯めたらこの仕事やめるつもり？
そういう考え方したことなかったから。
だいたい。ざっくりで。アバウトに。いくらくらい？
うーんと、予備校の学費の残金と、受験費用と、大学の入学金と、当面の生活費と学費と……300万か

かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

300万！
結構見積もったねえ。
はい。

かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

わかった。パパ貯金がいくらあるかにもよるけど、50万乗せて、だいたい350万くらいをちえりの取り
えー。
悪い話じゃないと思うけど。どうする？ 一緒にやる？
……考えときます。

かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

ちよつと待ってよ。何よ。350万って。ずるくない？
なにが。
だって、あたし50万だよ。なんでそんなに金額が違うの？
なにに。今更そんなこと言う。あんた50万もらえるーやったーって喜んでたじゃん。

かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

だって嬉しかったんだもん。
だったらそれでいいじゃんかよ。
よくないー。なんでちーちゃんは350万もらえて、あたしは50万なの？ え？ なんで？ 何が違う

かえで
まい
ちえり
まい
分にするよ。

の？ あたしとこの子と。
そりゃあんたが最初に30万って言うからじゃん。

かえで
まい
かえで
まい
かえで
まい
かえで
まい

だつて……。300万とか言っていていいと思つてなかつたんだもん。
じゃ、いくらだつたらやるんだよ。
ひやくおく。
ばか。
うそうそ。にひやくおく。
増やすんじゃねえよ。
こわーい。(ちえりに)ちーちゃん、お姉ちゃんが怒るー。
ちゃんとみんなが公平に分けるようにすつから。その代わり、お前にもきつちり働いてもらうからな。
働く働く。あたし何すればいいの？
まず、かえでは……

何やら密談をはじめた3人。

現在「ラブホテル プラネットの一室で」

かえでと先生。

かえで
先生
かえで

ねえ、何か飲む？
え、あ、うん、じゃ、緑茶、かな。
はーい。

先生、ソファに座る。

かえで、ティーパックでお茶を出しつつ、先生の横に座る。

かえで
先生
かえで

あたしも緑茶、好きー。
あ、そうなんだ。へえ。
うふふふふ。……なんか、いつもお店で合ってるのに、こういうホテルに一緒に来たら、照れますね。

先生
かえで
先生
かえで

え？ そう？
先生は？ 照れないの？
あ、いや、うーん。……どうかな。

先生
かえで
先生
かえで

え？
戸惑ってるところが。
（お茶のんで）熱っ。
あたし、あれ読んだよ。先生が書いてるやつ。

先生
かえで
先生
かえで

え？
なんか、ブログ？
なんで知ってるの？ それ、誰にも教えてないのに。

かえで うそー。忘れちゃったの？ ずーっと前に教えてくれたじゃん。あたしがまだお散歩やってた頃。

先生 そうだっけ？

かえで 読んだー。あれ。

先生 そう。いや、でも、あれはブログというより小説だから、いや、あー、っていうよりエッセイかな？ 限りなくエッセイ寄りの、とはいえ、小説と言えないこともないし。言えないこともないけど、そこが新しいっていうの？

新しいジャンル？ 小説エッセイ？ 小エッセイ？ ショエッセイ？

かえで 面白かったよ。

先生 うっそマジで。ほんと？ うわ、おもしろかった？ うそー。どこが？

かえで どこが？ 全体的に。

先生 (有頂天になつて) 全体的にかー。(お茶のんで) 熱っ！

かえで この前さー、先生言ってたじゃん。あの、パパ貯金の話。

先生 え？

かえで あれつてさ、どこに集めてるの？

先生 どこつて、なんで？

かえで 単なる興味。

先生 それ、教えてあげられないんだ。ごめん。

かえで うそそう。この前ちよつとだけ教えてくれたじゃん。

先生 うん、だけど、やっぱその話、言っちゃいけないことだったなーって思って反省したんだ。

かえで どうして反省なんかするの？ いけないことしちゃったから？ かえでが階段の踊り場で先生のをチュパチュパしてあげたから？ 反省したらかえで悲しい。

先生 いや、それについては、全然反省してないんだけどね。反省どころか、自慢？

かえで 自慢してくれるの？ 嬉しい。

先生 うほほ。

かえで パパ貯金って、あの事務所のどこに隠してるの？

先生 ……。

かえで　ねえ、あたしだけに教えて。お金。どこ？

先生　……いや、いやいやいや。それはね、ごめん、かえでちゃん。いくらかえでちゃんにも教えてあげられないんだよ。ごめん。

かえで　なんで？

先生　なんでって、わかってよかえでちゃん。俺にも立場があるんだよ。

かえで　あたしのこと嫌いななの？

先生　嫌いなわけではないだろ。それどころか……それどころかだよ！

かえで　だったらいいじゃん。

先生　ごめん……だめなんだ。

かえで　じゃあさ（先生の顔を持って）あたしの目を見て。……ねえ……あたしにも内緒なの？

先生　ウワー

かえで　あたし、今日は、先生に、全部許してあげようと思ってるんだよ。あたし、先生のために、覚悟してきたんだから。

先生　覚悟？

かえで　ごほうび。あげる。だから教えて。ね。

先生　先生、ごくりと唾を飲み込む。

暗転。

暗転。

暗転。

暗転。

暗転。

暗転。

先生　土日が搔き入れどきだからさ、その上がりを取り戻して、お金が集まるのが水曜日。その日の夕方までにぼく

が総売上と週ごとの経費を計算して帳簿につけて、お金は金庫に入れる。

かえで　（メモを取りつつ）パパ貯金は？

先生　そのお金は帳簿につけられないから、金庫と一緒にしまえないんだよね。だから別に保管してる。

かえで
先生
かえで
先生
かえで
先生
かえで
先生
かえで
先生
かえで

別つてどこ？

ぼくの机の中かな。木曜日の15時に智子さんが来るからその時までね。

智子さんが来たならそっくり渡しちゃうんだ。

そ。ぼくの管轄はそこおしまい。

智子さんはそのお金をどこに持っていくのかなあ。

……そんなこと聞いてどうするの？

どうもしないよ。単なる興味。

なるほど。単なる興味か。

どこに持っていくの？ 銀行とか？

いや、建物の外には持ち出してないと思うよ。智子さん慎重だから。

なにそれどういう意味？

身近なところに隠した方が安心じゃん。持ってウロウロするより。

それってつまり？

それはね……誰にも内緒だよ。

現在「犯行」

ポテトの揚がる音。ぴろり、ぴろり。
まいとちえりとかえで。

まい
かえで
まい
かえで

高級店だな

まい
かえで

隠し部屋？

まい
かえで

あの事務所の上って箱ヘルじゃん。その空室使ってるらしい。
なるほど。

まい
かえで

どうする？ 行つとく？ いつやるの？ 今でしょ？
ちえり、ほら、デリだけじゃなくて箱ヘルでも働いてる子いるじゃん。

まい
ちえり

ああ、たまに待機場で会う。
あの子たちを仲間に取り込んで、箱ヘルのその隠し部屋を割り出そう。

まい
かえで

えー。まだやらないの？ 今じゃないの？ いまでしょ。
もう一人誘いたい子がいるんだけど、その子にも声かけていいかな。

まい
ちえり

……どういう子？
援デリやつてる子。

まい
ちえり

使える？
……さあ。

まい
ちえり

(考えて) 連れてきな。
(独白) この翌日、あたしたちはここで、初めて全員揃って顔を合わせた。中心になったのはあたしたちの

中で一番長くやつてるまいさん、そして高校行ってるんだか行っていないんだかわかんないかえで、援デリ嬢のこはるとそ

の打ち子武志、悲惨な過去のゆうりと、いつか美容師になりたいって言っていたいちご、そこになぜか浩樹って男がついてきて、私を入れると全部で8人。計画してる間にもいろんなハプニングがあったけど、ここは一気にすっ飛ばして2週間後、潰れて廃墟になりかけたカラオケボックスで。

暗転。

懐中電灯の明かり。

「危ないから気をつけて」

「足元、ここソファがあるよ」

「待って、今ランタンつけるから」

など、暗闇から声が聞こえる。

ランタンがつくと、部屋がなんとなく明るくなる。

いちごと浩樹がいる。

いちご (はあはあと息を切らして) ああ、怖かった！

浩樹 怖かったね！

いちご でも、楽しかった！

浩樹 うん、楽しかった。

いちご 大丈夫かな、追っかけてこないかな。

浩樹 大丈夫だって。誰も追っかけてこないよ。

いちご うん。(安心して) えへ。やったね。これでしばらくお仕事しなくて済む。

浩樹 しばらくつかつか、ずっとしなくていいよ。すっげあったじゃん。お金。

いちご ずいぶんってどのくらいかな。

浩樹 めっちゃあったよ。テンション上がった。

いちご うれしー。あたし、もう仕事したくない。ずっと嫌だったんだけど、あたし他のことできないし、チビ達いるし。やめられなかった。

浩樹 心配すんなよ。見たろあの金。そうだ、今日お金もらったら、一緒に毛布買いに行こう。子供達寒そうにしてたじゃん。イオンならまだ開いてるかも。

いちご 浩樹やさしい。

浩樹 もう心配いらないよ。これからはずっと子供たちと一緒にいれる。つか、あんな小さい子を家に置いてくなんて、マジありえねーよ。

いちご ごめん。あたし、ダメなママだから。

浩樹 いや、いちごちゃんが悪いんじゃないから。余計なこと言っちゃったな……みんな遅いな。早く帰ってこな

いかな。おれたちが一番だったね。

いちご そうだね。じゃ、チューでもすつか。

浩樹 なんて。

いちご なんてって、だって誰もいないじゃん、今。ほら。チュー。やっところ。チュー。はい、チュー。(口を突き出す)

浩樹 いやいや、やめてよ、いちごちゃん。おれ、そういうんじゃないんだ。

いちご そういうんじゃないってなに？ あたしのこと嫌いってこと？

浩樹 違うんだよ。好きなんだよ。だから、いちごちゃんが軽いノリで来たら、ちよつと、なんかって感じ。

いちご よくわかんない。

浩樹 おれもよくわかんないよ。

いちご 「愛のしるし」を口ずさむが、思い切り歌詞を間違えている

浩樹 え、なにそれ。

いちご あたしこの歌好きなの。

浩樹 いやいや、なんか、聞き間違いかもしれないけど、もっかい歌ってくれる？

いちご (もう一度間違った歌詞を口ずさむ)

浩樹 そこそこ。ヒデキって歌ってる？

いちご
浩樹
いちご
浩樹
いちご
浩樹
いちご
浩樹
まい
浩樹
まい
浩樹
まい

そうだよ。

シゲキじゃない？

シゲキってなに？

シゲキだよ。ちくちくって。

なにそれ！

ほら。ちくちく（いちごの脇腹をつつく）

うわ、くすぐったい。

ちくちく！

（入り口付近に立っていて）なにやってんだお前ら。

うわ（驚いていちごから離れる）

あんたたちだけしかいないの？

はい。他の人たちは？

知らん。はぐれた。

場面は突然路地裏に。

まいとちえりが走って逃げている。

角を曲がったところで身を隠す。

あんた早いねえ。

陸上やってたんで。

あたしもう無理だわ。（来た方を見て）スカウト野郎がいる。やべえ。

あたしが巻きますよ。その間にまいさん逃げてください。

そんなことできるの？

あいつらなんかには負けません。

すげえな、なんか。

まい
ちえり
まい
ちえり
まい
ちえり
まい
ちえり
まい

ちえり
行きますよ……（飛び出していく）
まい おお！（走っていくちえりを見て）後ろ姿が凜々しいなあ。

場面戻ってカラオケボックスの廢墟。

まい あたしは逃げ切ったけど、ちえりを置いてきちゃったよ。

浩樹 ちえりさんなら大丈夫ですよ。別に根拠はねえけど。大丈夫だと思います。

まい あんたたちはどうやって逃げたの。

浩樹 おれ、この辺の道詳しいんで、スカウトがうろつかない裏道みたいなのがあるんすよ。そこ通って逃げてき

ました。

まい（ケータイをみて）うわ、すっこ。もう来てる。まじやばい。
なにか。

まい 噂になってるよあたしたちのこと。嬢のラインで回ってきた。

まい 見せて。（ケータイを取る）

まい もう、乱暴にしないでよ。バカ。ブス。

まい ……ちよつとこれ、あたしとちえりとかえでだけ名前出てんじやん。

まい ざまあ。

まい ざまあじゃねえよ。お前らだつて共犯だろうが。金いらねーのかよ。
いる。

まい（ケータイを見ながら）なんでこの3人だけバレたのかな。

浩樹 よくわかんないですけど、スカウトに見られたからじゃないですかね。

まい 他のやつらは見られてないってことか。

まい 先生には見られてるかも。あたし、見られたような気がする。

浩樹 やばいなあ。ちえりさん、実家じゃないですか。住所って店に知られてたりするんですかね。やっぱりあの人

を実行犯に入れるのって無理があったんじゃないかな。

まい 実行部隊には入れてなかったんだよ、そもそも。
浩樹 なんで計画通りにいかなかったんすかね。
まい ……。

かえで 登場。

かえで 話はさらに1時間前まで遡って、デリバリーヘルスする女学園の事務所にあたしのミッションは先生を外に連れ出すことだった。

事務所。

智子と先生がいる。

かえで こんにちはー。

智子 なに。出勤？

かえで 出勤はもうちよつと後でーす。

智子 前借り？

かえで 違いますよ。ここでヨーグルト食べようかなと思つて。

智子 ここで？ なんで。

かえで ここがいいんです。(先生に目配せ)

智子 そんでヨーグルトは？

かえで え？ あ。買うの忘れちゃった。

智子 あんた変わってるね。

かえで パパさんは？

先生 めんどくさい客がいたみたいで出て行きました。

かえで ふうん。

智子

(タバコの空き箱を覗いて握りつぶして、財布だけ持って) ちょっとタバコ買って来る。

智子出て行く。

パチパチとパソコンを叩く先生。

かえで

ねえ、一緒にヨーグルト食べようよ。

先生

ん？

かえで

一緒に。

先生

ないんでしょ？

かえで

買ってきてよ。

先生

え。

かえで

買ってきてー。

先生

……いいけど。智子さん帰ってきたらね。買ってきてあげるよ。

かえで

いや。今がいい。

先生

でも、事務所を空けるわけにはいかないから。

かえで

あたしが見てあげるよ。

先生

ダメだって。

かえで

お願い。

先生

いいか。別にいいか。かえでちゃんいてくれるし。じゃ、行ってくる。

先生出て行く。

すると潜んでいた、まいが現れる。

かえで

早く。智子さんすぐに帰ってくる。ほら、これ、(壁から手にとって) 部屋の鍵。

まい
かえで
まい
先生
かえで
先生
かえで
金庫のは……（智子のカバンの中から金庫の鍵を探し出して）これだ。
行こ。（まいが探すのをやめないのを見て）なにしてんの。帰ってくるよ。
（智子のデスクやカバンを漁りながら）待って。もう一つ必要なものがあるんだよ。
（戻ってくる）ねえ、いちごとブルーベリー、どっちにする？ あ。
あ。
ははーん……泥棒だな。これは。
やっべえ！

音楽。
かえで、そこに置いてあったバットを手に持つ。

かえで
先生、ごめん！
かえで、バットをフルスイング。
スローモーション。
先生の左ひじを強打する。

まい
かえで
（書類を見つけて）あつた！
行こう！
まいとかえでが部屋を出る。
ちやうどその頃、こはると武志。
電話でパパと話をしている。

パパ お前らの居場所がわかんないんじゃないや助けにもいけねーだろ。一体どこだよ。

武志 俺にもわかんねえっす。(こはるが武志を小突く)

パパ わかんねえじやわかんねえよ。

武志 なんか、こはるちゃんやばいんすよ。

パパ だから何がどうやばいんだよ。

武志 美人局みたいなのにつかまっちゃって。

パパ あのな、美人局っていうのは男が引つかかるんだよ。なんでこはるが引つかかってんだよ。

武志 あ、あの。(こはるがなにやら耳打ちしている)とにかくこはるちゃんがヤクザみたいなのに捕まっちゃっ

て。ぼくには手に負えなくって。すぐ来て欲しいっす。

パパ めんどくせえなまったく。

場面変わってしるく女学園が入っているテナントビルの非常階段。

踊り場にゆうりといちごと浩樹が待っている。

かえで

(ゆうりに鍵を渡して) じゃ、あとは任せた。

かえででは階段を降りていく。

ゆうりといちごと浩樹とまいを案内して階段を駆け上がる。

非常階段からビル内に入って廊下を走る。

行き着いた廊下の先にドア、鍵を開けて中に入る。

そこには大きな金庫が。

4人

おおお。マジかー。

ビルの一階、少し離れたところで。

ちえり、屈伸をして待っている。
かえでがやってくる。

かえで
もうすぐくるよ。

ちえり
……。

智子
（通りかかって）あら。ちえりちゃん。あなた今日出勤だっけ？
い、いえ。

智子
飛び入り？ 感心感心。今日もお仕事がんばってね。

かえで、隠れてラインを打っている。
そのラインを浩樹が見て

浩樹
やばいっす。智子さんが帰って来ました。
（現金を詰め込んだポストンバッグを持って）逃げるぞ！

少女たちの合唱。

「ゴンドラの唄」

いのち短し 恋せよ乙女
あかき唇 あせぬ間に
熱き血潮の 冷えぬ間に
明日の月日は ないものを

いのち短し 恋せよ乙女
いざ手を取りて かの舟に

いざ燃ゆる頬を 君が頬に
ここには誰れも 来ぬものを

しるく女学園の事務所。

先生が腕を押さえて痛がっている。いてえよーいてえよー

智子 全く。あんたたちは揃いも揃ってスカポントンだねえ。根こそぎ持ってかれちゃったじゃないか。
先生 いてえよー。いてえー。

智子 うるさいな。男だろ。ちよつとは静かにしてられないの。

先生 いてえー。病院ー。病院に連れて行ってくだせえ。

智子 今更病院に行つてどうすんの。肘のどこ、ばっきりいかれてるじゃん。もうそれだめだよ。病院行つても。
先生 だめってなんすか。ねえ、だめってどういうことっすか。

智子 ちえりとかえでだな。なんか様子がおかしかつた。

パパ まいも絡んでますね。

智子 手は打ってるんでしょうね。

パパ スカウトの若いの使つて探してます。ま、時間の問題っすよ。

先生 いてえいてえ。

智子 だいたいなあ、お前がウチの商品に手を出すからこういうことになるんだろうが。遊ぶんならもちっと上手
先生 に遊べ。

先生 すんません。もうしません。

智子 当たり前だバカ。

智子 (ラインを見て) お、一人捕まえたみたいっすよ。
誰。

10分後の事務所。

智子とパパ、雑に腕をくくった先生。
まんなかにちえり。

パパ
ちえり
ね、他の人たちはどこに隠れてるの？

パパ
ちえり
……。
ほら。黙ってないで。教えてよ。俺とちえりちゃんの仲じゃん。

パパ
ちえり
……。
強情だな。どこなの？ どうせそんなに遠くは逃げられないでしょ。

パパ
ちえり
……。
教えてくれたらさ、ちえりちゃんはこの件に関わってなかったってことにしてあげるよ。

パパ
ちえり
……。
（パパを睨む）
おーこわ。そんな目しちゃって。（智子に）ダメっすね。

智子
ちえり
……。
（ちえりに）携帯を出さない。

智子
先生
え。なんで。
携帯を出さない。出さないと、（先生を指差して）この人の左手を潰す。

智子
なもんだろ。
ごちゃごちゃ言うんじゃねえよ。どうせ肘がそんなことになってんだ。だったら手がどうだろうと似たよう

先生
先生
でも、心に大きな傷が残る。先生の左手が使えなくなっただのは、あの時強情を張って携帯を出さなかったからだって。

智子
先生
やっぱそれっておかしくないか？

智子
先生
木槌を持ってこい。
（木槌を持ってきて）どうぞ。

智子
先生
左手を出せ。

先生
智子
先生
智子
先生
んね。
多分。

いやですよお。
いいから出せ。
いやですってば。

出せっつーの（先生の腕を強引に掴んで引っ張ってテーブルの上へ）
あいたたたた！（小ぶりの木槌を見て）……っつーか、その大きさの木槌じゃ手のひらつぶれたりしませ

そうね。

せめて小さくてよかった。少しの怪我で済みますから。

潰れるまで叩くんだよ。何度も何度も。

南無三だ！（目をつぶる）

（ちえりに）お前はちゃんとみてる。目をそらすなよ。お前が携帯を出さないのが悪いんだから。

パパ、ちえりの顔を先生の手へ強引に向ける。

いくよ。（木槌を振りかぶって）

助けて……。

恨み言はちえりに言え。

ちえりちやーん。ぼくお茶碗持てなくなっちゃうよ。携帯出してよ。ぼくの左手と携帯とどっちが大事なん

……。

なんで答えてくれないんだよ。痛いんだよ。智子さん。ぼく、痛いんだよ。

九九でも数えてる。そのうち終わる。

そんなもんすか。

さあ、ちえり、この人の左手はあんた次第だよ。どうする。あと5秒。5

ちよちよちよ。

智子
先生
智子
先生
だよ。
ちえり
先生
智子
先生
先生
先生
先生

先生 先生 先生 先生 先生
先生 先生 先生 先生 先生

4、3。
ちえりちゃん。
2
まだ間に合う。
1。
もう間に合わない！

智子、木槌をふるう。
鈍い音。
血が吹き上がる。

先生 先生
先生 先生

痛いよ！
九九数えてろ！

智子、何度も木槌をふるう。
先生は九九を数えている。
血しぶき。

先生 先生 先生 先生 先生
先生 先生 先生 先生 先生

ギニャー
どうだ。
(ちえりを見て) 出す気なさそうっすね。
嘘だろー。これ見て出す気にならないって嘘だろー。
だんだん楽しくなってきた。
マジかよ。

智子、また何度も木槌をふるう。
先生が九九を数えている。
血しぶき。

ちえり
もうわかった。……わかったからやめて。携帯、出したらいいでしょ。
……そうよ。物分りがいいじゃない。
どうせ出すんならもつと早く出せよー。手がぐちゃぐちゃだよー。
先生

ちえり、携帯を出す。

智子
……ロック外して。

ちえり
(ロックを外す)

智子
(携帯を見ている)

パパ
何か書いてあります？ 場所とか、なにか。

智子
特に詳しい情報はないね。……でもね、関わってるのは……かえで、まい、それとはる。

パパ
ああ、援交やらしてる子っすね。

智子
あと打ち子の武志。お前、裏かかれてんじゃねーよ。スカポントン（パパの頭をはたく）

パパ
すんません。

智子
ゆうりといちご、あとよくわかんない男が一人。

パパ
誰っすか（携帯を覗き込む）

智子
知らん。浩樹ってやつ。

パパ
俺も聞いたことねえなあ。

先生
あ、あ、あ、浩樹浩樹。知ってる。知ってます。

パパ
何、お前知ってるの？

先生
それ、客っすよ。いちごの。前、聞きました。

パパ　へえ。

先生　かえでちゃんが言ってたんすよ。その、いちごの客も一緒に何かやるって。そうか、それってこのことだったんだ。

パパ　……つかお前、知ってたの。その話。

先生　そうっすよ。知ってるんすよ。いい情報じゃないですか？　だから病院連れてってくださいよ。病院。

パパ　おまえは本当にバカだなあ。先生というあだ名がこれほど相応しい男もいないもんだな。

先生　お願いします！

智子　（携帯を見ながら）　パパちゃん。こいつを病院に運んで。それで、スカウトつかってあいつらがどこに隠れてるのか調べてちょうだい。さ、早く。

パパ　あらほらさっさ！

現在「廃墟になったカラオケボックス」

まい、いちご、浩樹、こはる、武志。

まい ……（携帯を見て）やばい。ちえりがつかまった。

こはる ……この場所しゃべっちゃうかも。逃げた方がいいよ。

まい ちえりは信用して大丈夫だよ。

こはる そうかな。あたしだったら喋っちゃう。だって怖いじゃん。

いちご あーあ。ちえりちゃんは捕まるし、肝心なお金はどこ行ったかわかんないし。ダメだこりや。

武志 やばいっすよ。逃げましょう。おれ、マジでやばい気がする。

まい 騒ぐんじゃねえよ。まだ全員揃ってないだろ。みんな揃うまではここで待つ約束なんだから。

いちご あたしいやだ。もう帰りたい。

まい なんだてめえ、勝手なことやってんじゃねえぞ。

いちご だってもっと早く終わると思ってたんだもん。あたし、うちに子供置いてきたんだけど。

まい おまえガキいんのかよ。

いちご いるよ。

まい いくつ？

いちご 1歳と3歳。

まい おまえ、それ置いて出てきたのかよ。

いちご 大丈夫だよ。お姉ちゃんが面倒見てくれてるから。その辺の3歳児より全然頭いいのよ。

まい （頭を抱えて）めちゃくちゃだー。こいつら。

浩樹 おれ、すみません、あの。

まい なんだよ、お前は。

浩樹 おしっこ。…なんかさっきから言い出しにくくて。

まい 行ってこいよ。

浩樹、出て行く。

まい 全く、どいつもこいつも。

武志 ……やっべえ、マジでやべえつすよ。俺たち捕まりますよ。

まい うるせえな、どいつもこいつも。

武志 うるさくないつすよ。まいさんは別にいいつすけど、これしくじったら、おれとこはるはこれからどうやって仕事してつたらいいんすか。仕事無くしただけじゃないつすよ。おれたちこの境界のスカウト全員から狙われてるじゃないすか。

まい あたしは別にいいつすどういこと。

武志 だっていいじゃないですか。(まいが持つてる書類を指差して) まいさんの目的はその書類だったんでしょ。だとしたらこれつて、まいさんのための仕事じゃないつすか。なんすか、俺たちを巻き込んで。金のことなんて二の次じゃないですか。

まい 金だつて取つたじゃん。

武志 じゃ、その金は誰が持つてるんすか。今。どこにあるんすか。金は。

まい ……たぶん、ゆうりかかえでが持つてるよ。

武志 適当なこと言わないでくださいよ。店に取り返されてるかもしれないじゃないつすか。

まい ……。

武志 おれだつて、ここにあの金があつたら何も言わないつすよ。でも、やばい仕事だけして金が手に入らなかつたら、マジで、最悪つすよ。

浩樹帰つてくる。

浩樹 あれ。なんか……どうしたんすか。
まい どうもしてねえよ。

浩樹　じゃ、いいっすけど。なんか、空気がよくないっすよ。
いちご　早く帰りたいね。チビ達さみしがってるかな。
浩樹　明るい話をしませんか。あの、金。どうつかうつもりでした？ みんな。だって、すんげー金が入るわけじゃないですか。なんか、やりたいこととか、夢とか、考えたんじゃないですか？ おれは、新しいパソコンを買います。パソコン。無駄にグラフィックの性能を上げて、CPUのネットゲががつりできるやつ。ぎゅんぎゅん動くの。

沈黙。

浩樹　なんでノーリアクションなんだよ……。

いちご　あたし、思うんだけど、謝りに行った方がよくない？

まい　なにそれ。

いちご　だって、ちえりちゃん捕まってるでしょ？　それで、ゆうりもかえでちゃんも帰ってこないってことはさ、その二人もつかまっちゃったんじゃないの？

武志　やっべえ。それまじやべえ。

いちご　だったらお金もお店に戻ってるわけだし、これ、なかったことになるんじゃない？　だったら謝って許してもらえるよ。ね、許してもらおうよ。

武志　そうしましょう。それがいいっすよ。

こはる　そんな都合よくいくかなあ。

武志　こはるちゃん。

こはる　あ、でも、あたしとたけちゃんは大丈夫か。

武志　こはるちゃん。

こはる　たけちゃん言ってたじゃん。あたしたちはばっくれたらなんとななるって。

武志　ここでその話はダメ。

まい　おまえら、バックれるつもりだったのかよ。

武志　違いますよ、ちよっとした冗談で言っただけで。

まい 正直に言えよ。

武志 考えてませんって。

まい 嘘つくなんて（武志を小突く）。

こはる ちよつと待ってよ。なんでたけちゃんにそんなことすんの？ あたしら頑張ったじゃん。それなのにこんなことになってさ。これって誰が悪いんだ？ あたしらか？ 違うだろ。捕まったりするような間抜けが悪いんじゃないのかよ。（まいに）だいたいてめえよ、偉そうな態度とんなよ。偉そうにするんだったら金払え。金。どこなんだよ、金は。

浩樹 ちよつと。……こはるちゃん。仲間割れはやめよう。みなさんも、ここはひとつ、穏便に。

こはる あたしが悪いのかよ。

浩樹 そうじゃないけどさ。どんどん空気が悪くなっていくなあ。なんでこんなことになっちゃったのかなあ。そもそも、なんでこんなことに関わってしまったのかなあ。

浩樹にスポットがあたる。

浩樹 なんでおれがこれに関わることになったのか、それはパソコンのためなんかじゃない。自分のためでもない。それはいちごちゃんのためだった。

デリバリーヘルス「しるく女学園」の系列店、
ファッションヘルス「みるきいすくー」の一室で

いちご「こんにちは。いちごです。よろしくおねがいします。

浩樹（独白）本番禁止のヘルスなのに、いちごちゃんはすぐに最後までやらせてくれた。それでぼくはいちごちゃんを指名するようになった。いちごちゃんの手には根性焼きの痕があつて、同じような痕が背中にもあつた。

いちご「気になる？」

浩樹 え？

いちご「背中。」

浩樹 あ、まあ。
いちご お母さんにやられたんだ。かわいいそうでしょ。
浩樹 じゃ、もしかして、この手のも。
いちご そうだよ。自分でやるわけないじゃん。あたしヤンキーじゃないもん。お母さんにやられたの。
浩樹 なんて背中に根性焼きがあるのか、ぼんやり疑問には思っていたけど、そんなことって、そんなことってあるのか、母親が、実の娘の背中にタバコを押し付けるだなんて。ぼくはなんか、悲しくて、悲しくて、やりきれなくなつて。ぼくはそれから勃起しなくなつた。ぼくは若年性のEDになつてしまった。それでもぼくはいちごちゃんに会いたくて、小遣いを叩いた。

いちごのぼろアパート。

3歳の娘と、1歳の男の子。

いちご ほら、あんたたち挨拶して。

娘 しおんです。

息子 ぼぶー。

いちご マジくんです。

浩樹 え？

いちご この子の名前。本気って書いてマジって読むの。

浩樹 へええ。……かっこいいね。

いちご そうかな。この子たちの父親がちよつとイカれててさ。最初は夜の武士の愛で夜武愛（やぶあい）にするって聞かなくって、マジ焦つた。

浩樹 やばいはやばかったね。

娘 （浩樹になつてきて）ねー、おにーちゃん。

息子 （浩樹になつてきて）ぼぶー。

いちご すっごい、超なつてんじゃん。こいつら人見知りで知らん人にはあんまり近づかないんだよね。

浩樹 よし、ご飯食べに行こう。どこ行く？ どこがいい？ どこでもいいよ。
いちご えー。でも、急に聞かれてもわかんない。
浩樹 いつもどこ行ってるの？ ご飯。やっぱファミレスとか？
いちご 全然、ファミレスなんて行かないよ。だって、全員分お金かかっちゃうじゃん。大体はイオンのフードコートだよ。あそこタダだし。マックでポテト買って水飲んでりや、そこそこ腹も膨れるでしょ。
浩樹 ……わかった。寿司行こう！ スシローだー！
三人 えー！ やったー！

寿司が回っている。
いちごと娘が必死にとる。
1歳の息子は茶碗蒸しとうどんを食っている。

全員 お腹いっぱいだー。

いちごファミリーが恐る恐る浩樹を見る。

浩樹 大丈夫だって。
レジ お会計、6124円になりまーす。
浩樹 はい。(支払いを済ませる浩樹をいちご家族が感動の目で見ている)
レジ ありがとうございます！

帰り道。
手をつないで歩く4人。
歌を歌っている。

浩樹　ぼくは帰り道、いちごちゃんと子供たちのことを考えた。ぼくはこの人たちになにかできないんだろうか。少なくとも今日の寿司代は、ヘルスに行くより全然安かった。

いちごの家で。
子供達が寝てる。

いちご　あたしは、本当は美容師になりたくて。専門学校に行くためのお金を貯めてるんだ。もうちょっとでたまわって時に、あたし馬鹿だからさ、使っちゃうのよ。化粧品とか。あとこの子たちのおむつ代もあるし。お金って気づいたら減ってるんだよね。どこに流れていっちゃうのかなお金。

浩樹　大丈夫だよ。心配しなくても。いちごちゃんならきつと美容師になれるって。

いちご　うん。……でも正直、最近、美容師になれなくてもいいかなって。あたし、本当はお母さんになりたいんだ。ちゃんとしたお母さん。あたしのお母さんってマジ最悪だったから。子供相手に普通にプロレス技かけてくるような人なんだよ。

浩樹　え。

いちご　スリーパー落ちるまでやるし。キン肉ドライバーかけられた時はあたし気絶したからね。ありえなくない？だから、あたしはこの子たちのいい親にならなきゃって。子供にキン肉ドライバーかけるような親には絶対ならねえって。

浩樹　いちごちゃんは絶対しないよ。そんなこと。想像つかないもん。

いちご　あつたりまえじゃん。最悪だったからね。あたしの子供の頃って。つか、あたしだけじゃないな。お店に集まってくる子は似たり寄ったりか。みんなしゃべらないけど、なんとなくわかる。お互いにね。子供には夢があるとかが、なんかそんなこと言う人いるじゃん。でも、あたしは子どもの頃、自分に夢があるとは思わなかった。生きるだけで精一杯でさ。夢？　は？　なにそれって感じ。だから、この子たちには同じような目に合わせたくないんだよね。この子たちにはのびのびと、子供らしくあつてほしい。この二人があたしにとつての希望の星なの。

浩樹　……。

いちご　柄にもないこといっちゃった。

浩樹
いちご
十分いい親じゃん。いちごちゃん、いいお母さんだよ。しおんもマジも幸せだよ。そうかな。えへへ。……浩樹くん。ねえ。

浩樹

いちご
なんだよ。パンツ脱ぎなよ。やったげる。

浩樹

いちご
え？
口で抜いてあげるよ。パンツ脱ぎなよ。

浩樹
いや、あの、それはやめとこう。

いちご
ほら、この子たち寝てるから。ばれないって。

浩樹
だめだめ。だめだめだめだめ。寝てもだめ。起きたらどうするの。

いちご
ばっくれたらいいじゃん。

浩樹
だめなんだって。そういうアレじゃないんだって。

いちご
じゃ、どういうアレなの？

浩樹
大事にしたいんだよ、そういうのを。

いちご
大事って何を？

浩樹
いちごちゃんのことを。

いちご
じゃ、今まで大事にしてなかったの？

浩樹
いや、大事に、よくわかんない。そんなこと言われると。

いちご
わかんないね。あたしもわかんない。

浩樹
(混乱して叫ぶ) あー！

翌日。娘と息子はおとなしく遊んでいる。

浩樹といちごが向かい合って書類を見ている。

浩樹
売却できる土地や建物がありますか？

いちご
ない。

浩樹 貯金はありますか？

いちご

ありません。

浩樹 家族で仕事ができる人は……いませんね。

いちご

ねえ、これ、なに？

浩樹 生活保護のパンフレット。いちごちゃんならきつと対象だとおもうんだけど……月の収入が、国の定めた最低生活費より低かった場合に受給できます。最低生活費ってなんだ？（スマホで調べている）

いちご

おなかすいちごちゃんなあ。

平成〇〇年度生活保護制度における生活扶助基準額の算出方法というページが開く。

浩樹

……これなんだ？ 全然わかんねえ。むずい。

いちご

マック行こ。おなかすいたよう。

娘

おなかすいた！

息子

ばぶー

浩樹

ちよつと待って。今大事なところだから。

いちご

……（キレて）なかが大事なんだよ。子供が腹すかしてるだろうが。それより大事なことがあんのかよ。

浩樹

え、いや、違うんだよ。これはね。いちごちゃんたちが生活保護を受けられるように。

いちご

いらねえよそんなもん。あたしはね、自分の身体で稼いでるんだよ。ひつどい仕事だけど、それでも誰にも

迷惑かけずにやってんだ。それなのに、てめえ、勝手なことするんじゃないよ。

浩樹

違う違う。ぼくはいちごちゃんのことを思って。

いちご

だったら飯を食いに連れていけよ！

浩樹

わかったよ！ ちよつと待ってる！（部屋を飛び出して走りながら）あああ！ なんてうまくいかねえんだ

生活保護！

いちごちゃんのためにあるんじゃないのかこういう制度って！ つつか生活保護難しい！ 心折れそうだ

し！ 何よりいちごちゃん嫌がってるし！ 気づいたらおれ裸足なんだし！（家について）ただいま！

浩樹の母

おかえり。

浩樹 お母さん、お小遣い。

浩樹の母 おとといあげたじゃないの。

浩樹 あれじゃ足りないよ。

浩樹の母 お母さん、もうお金がないわよ。

浩樹 うるさい！（財布を取り上げ、中身を抜く）行ってきます！

浩樹の母 ひろきー！

浩樹 （いちごの家まで走りながら）もう限界だ。この暮らしは行き詰まっている。ぼくも、いちごも、あの子たちも、このままではいられない。でも、だとしたら、ぼくたちはこれからどうしたらいいんだ！（家について）ただいま！

三人

腹減った！

浩樹 寿司行くか！

いちご すし飽きたー。

娘 ハッピーセットがいい。

息子 ばぶばぶばぶー。

浩樹 ようし、それじゃ、ハッピーセット10個だ！ あー！ どんだけのお金があれば親子三人不自由なく生きていけるんだ！ 生きていくのは難しい！（ラインが着信する）あれ、ちえりさんからラインきた。

舞台が元の廃墟に戻っている。

まい ちよつとこれ。ちえりじゃないよ。……智子さんだ。

浩樹 お金と引き換えにちえりさんを返すって言ってきましたよ。

武志 っことは、まだお金は取り返されてないんだ。

いちご じゃ、早いとこ返しちやお。

まい 返そうたって金がねえよ。

浩樹 誰が持ってんのかな。

まい

ゆうりとかえでだろ。

全員が顔を見合わせる。

こはる

あー、どこにいるのかな。あの二人は。

現在「喫茶店で」

場末感の漂う喫茶店。

うっすらとポールモーリアが流れている。

ゆうりとかえで。

そして二人の足元にはポストンバッグ。

かえで

(携帯を見て) うわ。ラインみた？

ゆうり

いや。

かえで

お金返せって。

ゆうり

誰が。

かえで

ちえりちゃん。

ゆうり

ん？

かえで

ん？

ゆうり

なんでちえりさんが返せって言うんですか。

かえで

なんで？ そんなのわかんない。だって、ちえりちゃんが言ってるんだもん。お金返したらちえりを返すつて。

ゆうり

(携帯を見ながら) たしかに。ちえりさんだ。

かえで

ねえ、あたしもうドキドキがとまらないんだけど。もう帰ろう。待ち合わせの場所でみんな心配してるよ。

ゆうり

はい。

かえで

もういいよ、コーヒーその辺で。ねえ、そんでき、打ち上げで焼肉行こうよ。あたしおなかすいちゃった。

ゆうり

もういいよ、コーヒーその辺で。ねえ、そんでき、打ち上げで焼肉行こうよ。あたしおなかすいちゃった。

(立ち上がった) ねえほら。行こ。

ゆうり

……。

かえで

なに。(また座って) なにぐずぐずしてんの。行こうってば。

ゆうり

はい。

かえで
ゆーり
なんだよ。……仕方ねえな。先に焼肉行く？

かえで
ゆーり
え。

かえで
ゆーり
いいよ。内緒にしといてあげるから。食べてから帰ろう。

かえで
ゆーり
……。

かえで
ゆーり
ばれないって。だって、そんだけあんだもん。何万か減ったところでわかんないよ。

かえで
ゆーり
……。

かえで
ゆーり
焼肉にライスつける派？ それともつけない派？

かえで
ゆーり
……。

かえで
ゆーり
焼肉行ったらライスどうする？

かえで
ゆーり
食べます。

かえで
ゆーり
だよね。前、一度さ、お散歩の時に焼肉ゴチってくれた人がいて。あたしがライスの大って言ったら、え、

かえで
ゆーり
ライス食うのかよって。逆に言ってやったわ。おめえ、ライス食わねえのかよって。

かえで
ゆーり
これ。

かえで
ゆーり
なに。

かえで
ゆーり
いくらあるんでしょうか。

かえで
ゆーり
さあ。わかんない。すんげーあるんじゃない？ 何百万とか？ もっとか。だって、百万って（手でやって

見せて）このくらいの束だよ。これ、それがたくさん詰まってるから。一億とか。やっぱ。あたしたち今、一億持ってる。

かえで
ゆーり
すごい。

かえで
ゆーり
まじやばいよね。焼肉くらい屁でもねえわ。行こ行こ。腹が据わった。つつか、腹減った。

かえで
ゆーり
かえでさん、これ、あたしにください。

かえで
ゆーり
なに？ マスカラ？

かえで
ゆーり
違います。このお金。あたしにください。

かえで
ゆーり
……なんで？

かえで
ゆーり
お願いします。

かえで
お願いされても。

ゆうり
じゃ、あたし、これで。(バッグを持って出て行くこととする)

かえで
ちよつと待ってよ。

ゆうり
なんですか？

かえで
それ、ネコババさんの？

ゆうり
そう、なりますかね。

かえで
……それってまづくない？

ゆうり
まづいでしようか。

かえで
まづいよ。だって、みんな待ってるんだよ。

ゆうり
はあ。

かえで
マジでぶつ飛んでるな、どいつもこいつも。自信なくすわ。30万とか焼肉とか、あたしスケール小せえ。

ゆうり
……。

かえで
どうしたいの、このお金。

ゆうり
……。

かえで
いつそさ、二人で山分けする？

ゆうり
……。

かえで
独り占めする気かよ。

ゆうり
すいません。

かえで
それはすいませんじゃねえべ。ゆうりちゃん。みんなでやったことだし、独り占めはちよつとねーわ。

ゆうり
ですよね。

かえで
一旦みんなのところに持って行ってさ。そんで頼んでみたら？ 全部ってのはちよつとあれだけど、みんなそ

んなに悪い奴らじゃないし。話したらわかってくれるかもよ。

ゆうり
すいません。でも、それじゃダメなんです。あたし、全部欲しいんです。

かえで
どうしたいんだよそれを。

ゆうり
……

かえで　　なんで黙るんだよ。黙るのは無しだろ。(携帯をつついてる)

ゆうり　　……。

かえで　　なんか言えよてめえ。

ゆうり　　……あたし、ずっと一人で。家族とかいなくて。学校でも友達とかできなくて。それで、地元の先輩にウリを教えられて、でも、お金はほとんど先輩に取られて、あたし、このままじゃ本当死ぬと思って。それでこの街に出てきたんです。

かえで　　おう。

ゆうり　　こつちで普通のバイトして、やり直すつもりで。でも、あたし、お家借りるのに保証人がいるのとか知らなくって。しかも二十歳にならなきゃケータイ持てないし。ケータイなかったらバイト探せないし。あたし、もうどうしようもなくって。警察につかまったら、あの町に連れ戻されると思って、どうしようもなくって。

かえで　　なんだよその話。

ゆうり　　別になんでもないです。

かえで　　ちえりはどうすんだよ。あいつ、捕まってるんだぞ。その金と引き換えじゃなきゃ返してもらえないって。

ゆうり　　あたしあの人嫌いです。

かえで　　は？　　なんで？

ゆうり　　あたしのことをバカにしてるから。見下されてるみたいで。

かえで　　そんなことはねえだろ。

ゆうり　　かえでさんは普通に学校行けていろいろ普通だからわかんないんですよ。

かえで　　あたし学校行けてねえけど。

ゆうり　　だいたい、ちえりさんもかえでさんも、普通のバイトやろうと思ったらできるのに、なんで風俗なんかやるんですか。あたし、ちえりさんが店の一位とるのっておかしいと思うんです。

かえで　　ちよつとちよつと。それと、ちえりを助けるのは別の話じゃね？

ゆうり　　そうでしょうか。

かえで　　……わかったよ。その金、好きに使いなよ。その代わり、教えてくれる？　　使い道。何に使うの、一体。

ゆうり　　おうちを買います。

かえで
え？

ゆうり
おうちをかうんです。

かえで
……おうちって、住む家のこと？

ゆうり
地元でそこそこの家があるんです。お母さんと一緒に住んでたアパートの近くで。その家を買います。

かえで
そこそこつつたつて。そんな気軽には買えないだろ家は。

ゆうり
でも、これだけあつたら買えると思います。

かえで
……じゃあさ、まだ電車あるしさ、案内してよ。

ゆうり
え？

かえで
ゆうりがそこまで欲しいって言ってる家だったらあたしも興味あるし。

ゆうり
今から、ですか。

かえで
だつてずっとここに居るわけにもいかねーし。待ち合わせの場所にも行かねーつうし。かといつてあたし

も素直に引き下がるわけにいかないでしょうよ。だからさ、その家あるとこまであたし連れて行ってよ。そんで納得させ
てくれたら、力になってあげるよ。

喫茶店を出る二人。

現在「ちえりと智子」

しるく女学園事務室
ちえりと智子

智子 意外と薄情だね。あんたの仲間も。助けに来る気配なし。

ちえり そんなもんですよ。

智子 そんなもんか。そんなもんだよね。風俗で知り合った仲間なんてそんなもんだわ。

ちえり ……。

智子 あんたさ、ずっと勉強してるよね。待合でも。がんばるねえ。あたしよくわかんないんだけどさ。そんなに
してまで大学行って行きたいものなの？

ちえり ……。

智子 やつと大学入って、さしてやりたくもない勉強をして。そんで次は就活か。就活にもすんごいお金かかるん
でしょ。たまにいるのよ、就活の資金を稼ぐために風俗やりに来る子。でもさ。会社回ってペこペこ頭下げるのに金使っ
てさ、何やってんの？って感じ。苦労してやつと就職して、それでつまらない仕事をするのか。あんたたちそれで楽しい
わけ？

ちえり それが普通なんですよ。

智子 あたし、普通って言葉が一番嫌い。

ちえり あたしは普通が一番だと思ってます。

智子 ふうん。受験する風俗嬢なんて普通からかけ離れてるよ。残念でした。

ちえり ……。

智子 あんた、なんでこの仕事続けてるの。みんな辞めてくじゃん。あんたも適当に稼いで適当に辞めたらよかつ
たんじやない。

ちえり あたし、自分のお金は自分で稼いでるんで。

智子 まあ偉い。

ちえり

バカにしないでください。

智子

バカにしてんのはどっち？

ちえり

……。

智子

あんた、風俗って、適当にやったらそこそこ稼げてちよろいって思ってるんですよ。いい機会だから教えて

あげるけどね。表向きはあんたが一位ってことにしてるけど、あんた全然だから。順位、全然下だから。本当の売り上げ1位は、いちご。あの子はNGないからね。めちやくちなことも平気でやるから。だから変態からどんどん指名来てんの。うちの稼ぎ頭だよ。

ちえり

なんでそんな嘘ついたんですか。

智子

だっていちごが一位だって言ったらみんなやる気無くすじゃん。ハードな仕事しないとダメなんだって思う

でしょ。それに比べてあんただったらみんなが対抗意識を燃やすのよ。あんた、どことなく鼻に付くからさ。

ちえり

……。

智子

どう？ 悔しい？ 悔しかったらやってみるか？ 援助交際。金になるぞ。大学も就職もバカバカしくなる

ぞ。

ちえり

やらねえよ。

智子

強がってー。……あの金、どうするつもりだったの、あんた。入学金とか学費とか、そんなつまんないこと

に使うつもりだったの？

ちえり

……。

智子

報われねえな。そんなんじや報われねえよ、あの金。もっと派手に使え。あれはなあ、女たちが自分を削つ

て稼いだ金なんだよ。ちまちま地味な使い方されたんじや女たちが報われねえよ。(智子の携帯ラインが着信) あ。すごいね。なかなか捨てたもんじやなかったじゃん。あんたの友達も。

ちえり

知らん。

智子

偉そうに、待ち合わせの場所を指定して来やがったわ。さ、行くよ。あたしは金さえ戻ればいいんだから。

二人、部屋を出る。

現在「ちえりと智子とその他の人々」

夜道を歩きながら。

ちえり なーんか、もうどうでもよくなっちゃったなあ。

智子 ん？

ちえり 学校も、仕事も。なんか、どうでもよくなっちゃった。

智子 ふうん。

ちえり あたし、実はもう、予備校の模試で志望校A判定なんですよ。受かるんです。受ければ。へえ。

ちえり だから、もう、興味ないんです。やる前から結果がわかってることって、つまんないじゃないですか。だから、実はちよつと前から、もう大学もいいかなあって。

智子 感じ悪い。

ちえり よく言われます。

智子 (立ち止まって) さて。待ち合わせはこの辺かな。

ワゴンRに乗り込んだまい、武志、浩樹、こはる、いちご。
まいが運転席から双眼鏡を覗いている。

キター。

浩樹 やつべえ。まじで来てる。俺たち金ねえのに。

まい はい、次の作戦！

浩樹 え？

まい ここからどうするの？

浩樹 いやー、そこまでは考えてなかったなあ。

まい なんだそれ！ おびき出してからちえりを救出するんじゃないのかよ！ 大事なのはここからだろ。
浩樹 作戦が尽きた！ 万事休すだ！
まい 尽きるのが早すぎるわ！
武志 大丈夫です。ここで攪乱作戦に出ましよう。この辺りはかなりやばいのが徘徊してますから。一斉に招集をかけます。（スマホをいじる）出会い系サイト、更新！

ちえりと智子。

智子 なんか、じろじろ見られてない？
ちえり はい。

きもい奴らが集まってきた気がするんだけど。そろそろと。気のせいかなあ。

離れた位置からまいたち。

まい （双眼鏡を見て）独特の雰囲気を持ったおっさんが集まってきた。
武志 タダでいいわよ生本番、ど変態も全然オツケーって、出会い系サイトから出会い系のアプリから手当たり次第に書き込んでやりました！

まい さすが打ち子！
こはる 援助交際の技術が役に立ってる！

まい （双眼鏡を覗きながら）ちえりと智子が変態に囲まれている！ もう身動きが取れない！
全員 やった！

まい じわじわと変態たちが二人を追い詰めている。
全員 やったやった！
まい でもさでもさ、ちえりさんも一緒に変態に囲まれてたらさ……だめじゃん。
まい ああ、どちらかというところちえりの方に人気が集中している！

武志　しくじった！　書き込みを変えよう。ババアの方、ババアの方。生本タダはババアの方。
まい　（双眼鏡を覗いて）効果なし！　目下人気は若い方に集中！
全員　（落胆して）ああ。
まい　お！　一人が動いた！

ちえりと智子のところにコートで顔を隠した男性が近寄ってくる。

キモい男　（智子に）あ、あの。サイトを見たんですけど。タダでやらせてくれるっていうの、んふ、あなたでしょ。あなたですよね。

まい　（双眼鏡で見ながら）何か話しかけてる！

智子　え？　知らないそんなの。

キモい男　知らないことないですよお。んふふ。だって、ほら、掲示板に、書いてあるじゃないですか。これ、あなたの服装と同じでしょ。こここのところ。

智子　え。なにそれ。誰、これ書いたの。

キモい男　そんなー。しらばつくれるのはやめてくださいよ。んふ。どこでやりますか。そこに公衆トイレがありますよ。そちらの女性も一緒ですか。んふ。

ちえり　（男の顔をまじまじと見て）あれ？　お兄ちゃん。
キモい男　れれれ。綾乃ちゃん。

変な沈黙

智子　この人、お兄さん？

ちえり　はい、大学留年中で引きこもりの。

智子　あんたのお兄さん、大学留年して引きこもりで、変態なんだ……。御愁傷様……。
ちえり　……。はい。

キモい男 (突然キレて) おまえら、好き放題言いやがって、だいたい綾乃、おまえはここで何やってるんだよ！
こは、いかがわしいところだぞ！ こんなところにいるお前は淫売か？ 淫売なのか？ 綾乃、おまえは淫売だったの
か！？

ちえり てめえにそんなこと言われる筋合いはねえよ、こうなったのはそもそもてめえのせいじゃねえかよ。ふざけ
んじゃねえぞ！ (キモい男に右ストレートをきめる)

まい (双眼鏡を覗いて) なんかよくわからんけど、ちえりがキモい男に右ストレート！
全員 え！

ちえり どさくさに紛れてローキック！ (智子にローキックする)

智子 あああ！ (崩れる)

まい (双眼鏡を置いて) なんかようわからんけどチャンス到来！ 車回すぞ！

まいの車がちえりのところへ。

浩樹 (ドアを開けて) 乗って！

ちえりがまいの車に乗り込む。

まい 出発！ 次はゆうりとかえでだ！

車が走りだす。

過去「三浦茜の場合」

まい あたしはここでまいって呼ばれてるけど、半年前までは茜って名前だった。それまでここから30分くらい電車で離れた街に住んでいた。この仕事を初めてから、あたしはその街に帰っていない。特にイオンのフードコートには絶対に近づかない。あそこから全てが始まった。

イオンのフードコート

買い物帰りの三浦茜とその友人、さつきとはるか。

さつきは3歳の男の子レンを、

はるかと同じ年の男の子ヒュウガを連れてくる。

子供が走り回っているが特に気にしない。

親たちはマクドナルドのポテトをつまんでいる。

さつき

(メールを見て) まじ超だりい。

茜

バイト？

さつき

くっそ店長、明日休みでいいつつたのによー。

茜

えー。あした？ 最悪じゃん。

さつき

マジ高校生超むかつくわー。

はるか

まだ言ってくれるだけいいよ。うちのコンビニなんてばっくれるやついるからさ。

茜

ばっくれかー。あたしも高校生の時やってたなー。

はるか

だめじゃん。

さつき

まだばっくれないだけいいけどさ、突然なんだよいつも。部活だかなんだかしんないけどさ。突然言われる

こっちの身にもなれっつーの。

レン

おかあさん、おかあさん。おかあさんおかあさんおかあさんおかあさん。

さつき
レン
さつき
レン
さつき
はるか

なによ。
のどかわいた。
あっちに水あんだろ。飲んでこいよ。
あっち？
あっちだよ。
ヒュウガ、あんたもレンと一緒に水飲んでおいで。
子供二人、水を飲みに行く。

はるか
茜
はるか
さつき
はるか
さつき
茜
さつき
さつき
茜
さつき
さつき

ねえ、ちよつと聞いたんだけどさ。
なになに。
え？ うん。……さつき、二人目できたって本当？
え、なになに！
どこで聞いたの？
ちよつと。
え？ マジで？ どうなの。さつき。
(黙ってブイサインを出す)
マジか。
いやー、旦那が頑張っちゃってさ。
よかったじゃん。さつき、二人目欲しいって言ってたもんね。
うん、ありがと。これから怪獣が二人になるから覚悟しとかなきゃね。
なんとかなるって。
いやー。大変だつて。うちは茜んちみたいにはーばが見てくれないからさ。
なついちやってんのよ、ばーばに。私といるより楽しいんだね。いろいろ買ってやってあまやかすから。

茜の電話着信がなる。

……。

出ないの？

この番号知らん。

年金の催促じゃない？

いや。携帯だもん。この番号。(着信画面を見せる)

しばらくして切れる。

はるか それはそうと、お祝いしなくちやね。

さつき バーベキュー？ 行っちゃう？

茜 行つとく？

はるか ライン送つとくか。

さつき やめてやめて。あんま大騒ぎするとなんか恥ずかしいじゃん。そつとしいてよ！。

はるか もう遅い。送った。

さつき うわ！。

すぐに三人の携帯が着信し始める。

なんどもなんども。

マジみんな反応早すぎね？ ずっと見てんのかね。

あんただって見てんでしょいちんち中。

あたしがやってんのはツムツム。

同じだよ。

さつき
はるか
さつき
はるか

さつき

同じか。

茜の電話がなる。

茜

……。

さつき

……出なよ。

茜

(電話に出て) もしもし？

子供が帰ってくる。

レン

おかあさん。服がびしょびしょになっちゃった。

さつき

なにやっつんだよ。どうやったらこんなびしょ濡れになるんだよ。

ヒュウガ

おかあさん、ぼくはずぶ濡れになったよ。

はるか

なにこれ。どういうこと？

以後、わいわいがやがやと子供の服を着せ替える母親二人。

その前で電話に出ている茜。

電話

(三浦茜さん?)

茜

はい、そうですけど。

電話

(三浦ヤスヒロさんの奥さん?)

茜

そうです。

電話

(あのねえ、お宅のご主人がさあ、金借りたまま逃げちゃったんだよねー。今どこにいるのか知ってます?)

茜

え？

電話

(借金したまま行方不明なの。お宅の旦那)

茜 え？

電話 (お宅、今どこ？)

茜 は？

電話 (どこにいんの？)

茜 イオンの、フードコートに。

電話 (なに？ 聞こえねえ)

茜 フードコート。

電話 (なに？)

茜 (わいわい騒ぐ子供たちに) うるさい！静かにしろ！

子供たち驚いて静まる。

茜 あ、あの。イオンのフードコートに。

電話 (あー、イオンね。事務所来れる？ 今すぐ)

茜 え、あ、その、今はちよつと。

電話 (来れないの？ 困ったなあ。じゃあ、仕方ねえからゴータくんがいるとこまで、こっちからお邪魔しちゃ

おっかなー)

茜 それは。

電話 (何？ 困るの？ だったら奥さんから来てくれないとね)

茜 はい。

電話 (市内まで出てきてよ。そしたらこの番号にかけて。場所詳しく教えつから。三十分くらいでこれるよな。

待ってるよー)

電話切れる。

茜 ……どうしよ。

さつき なになに。

茜 なんか、旦那が、どっかに借金してて、そのまんまなくなったって。

さつき え。旦那、借金踏み倒したの？ やるー！ (二人が引いてるのに気がついて) やらないやらない！

はるか じゃ、今のは催促の電話？

茜 わかんない。事務所に来て。どうししよう。あたし、怖くてそんなとこいけない。

さつき うちの旦那一緒に行かそうか。どうせあいつ暇だし。

はるか うん、それいいよ。一緒に行ってもらいなよ。一人じゃ絶対やばいってそんなとこ。

さつき あいつあたしの言うことならなんでも聞くからさ。ラインしとくよ。

はるか と茜の携帯にラインの着信。

茜 (携帯を見て) ……ちよつと。グループで流さないでよ。

さつき ごめん。誤爆。

茜 つかマジありえねえし。なんだよこれ。茜んちの旦那が借金踏み倒してピンチって。まんま書きすぎだろ。

さつき ごめん。

茜 そんなでハローキティのスタンプでヘルプ！とか送ってんじゃねえよ…ノリが違うってノリが。

さつき ごめんって。

はるか (ラインを見て) でも、さつきの旦那、来てくれるみたいよ。

さつき ほら。よかったじゃん。一人じゃなくて。すぐ行くって言ってるし。

はるか とにかく今日を乗り切りな。お金はみんなでなんとかできるかもしれないし。だってあたしたち、ずっと一

緒にやってきたじゃん。

茜 はるか。

はるか あたしたちには仲間がいるんだから。大丈夫。心配いらないうよ。

茜 (独白) でも、待ち合わせの場所にさつきの旦那は来なかった。

男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男 茜 男

事務所。

ごく普通の30代男性が椅子に座っている。

三浦さんの奥さん？

はい。

どうぞ座って。

(促されるまま座る)

ご主人から聞いてた？

え？

借金。

いえ。

だよ。言わないよね。じゃ、驚いたでしょ。

はい。

気になる？ いくらあんのか。借金。

え、あ、はい。

いくらだと思う？

いや、ちよつと。

言ってみなよ。案外当たるかもよ。ほら。いくら？

ちよつと、わかんないです。

つまんねえな。当たるかも知んねえじゃん。

ええ、でも。

三百万。おたくの旦那の借金。どう？ 多い？ 少ない？

三百万……。

ある？ 三百万。

男 今ほちよつと。
男 貯金ないの？

男 ないです。

男 だよね。あつたら逃げないもんね。三百万、頑張つたら返せない額じゃないと思ふだけどさ。

男 あ、あの、親と相談して、お金は返すんで。

男 いつ？

男 え？

男 いつ返せるの？

男 ちよつと、それは

男 いやね、今日が返済の期限でね。明日になるとこれが350万になるんだなあ。

男 は？

男 そういふ契約なの。次はその350万が元金になって、7日で1割の計算だから、来週の明日は385万。

男 次の週には423万5千円。その次の週には465万8500円。返せる？ 奥さん。行けそう？

男 ……。

男 旦那にはさ、東南アジアで腎臓でも売りさばいてもらおうかと思つてたんだけどさ、多分それが怖かつたん

男 だね。それか、おたくのゴータくんならもうちよつといい値段で買い取ってもらえるかも。子供つて金になるのよ。奥さん、

男 知つてた？

男 (怯えている)

男 それか。

男 ……。

男 奥さんだったらもつといい仕事ができそうだなあ。どう？ やつてみる？

男 茜がまいになる。

まい (借用书を持って)この男、嘘ばっか。智子さんから取り返した借用书には金50万としか書いてなかつた。

なにが300万だよ。大嘘つきやがって。それより何より許せないのは、あたしの夫だった。確かにあたしたちでは50万は返せる額じゃなかったけど、でも、あいつは、50万で、あたしとゴータを売りやがった。あいつにとってあたしたちは50万以下の価値しかなかったのだ。

電車の車内が浮かび上がる。

かえでとゆうりがいる。

ほとんど乗客がいない。

まいの独白が続く。

まい　半年前まであたしは茜だった。ここから電車で30分くらいの街に住んでいた。この仕事を始めてから、あたしはその街に近づくことはなくなった。かえでからラインで、今ゆうりとその街へ向かっているという連絡が来た。あたしはいま、半年ぶりにその街へ、仲間たちを連れて向かっている。

現在「ゆうりとかえで」

アナウンス　まもなく電車が到着いたします。

電車が到着。

ゆうりとかえでが降りる。

ゆうり、どンドン歩いていく。

かえで　ねえ、どつかのコンビニに寄らない？　お腹すいたよね……それともやっぱ焼肉にすつか。特上って食べた事ないっしょ。あたしもないんだ。……（袖を引っ張って）ねえ。そんなに急がなくてもいいじゃん。

ゆうり　だって、遅くなったら帰れなくなりますよ。

かえで　いいじゃん。駅前にカラオケあったし。いざってなったらあそこに泊まろう。だからゆっくり行こうよ。あたし疲れた。

ゆうり黙って歩いている。

道が次第にさみしくなってきた、山道に入っていく。

かえで　これ、ほんとにお家を見に行ってるの？　どうみても山道なんだけど。……ねえ、あたしたちどこに行くんだっけ。お家見に行くんだよね。

ゆうり　そうです。

かえで　じゃ、いいけどさ。

山道を抜ける。

そこは丘の上の展望台。

かえで おお。街の灯だ。

ゆうり この丘からあたしの通った学校の校区が見えるんです。あそこがさつき前を通ったファミマで、あれがイオン。あっちが駅前のスーパー、あれが、あたしとおかあさんが住んでたアパート。

かえで アパートはよくわからんなあ。

ゆうり そのアパートの少し先に、あたしの欲しい家があります。

かえで 全然わからん。夜だし。

ゆうり もうすぐ彼が来ます。

かえで 誰？

ゆうり だいたいわかってるでしょ？

かえで 全然。

ゆうり 邪魔しないでくださいね。かえでさんとはここでお別れです。

かえで なにそれ、どう言う意味？

パパ現れる。

パパ 待った？

ゆうり いえ、いま来たところです。

パパ 一人じゃないんだ。

ゆうり いえ、この人は……。ここでお別れするんで大丈夫です。

パパ それがさ、ちよつと事情が変わっちゃって、ゆうりちゃんにはもうちよつとの間ここで待っててもらおうこと

になったんだ。

ゆうり え？

パパ ひとまず、そのバッグをこっちに渡して。

ゆうり、パパにポストンバッグを渡す。

パパ
ゆうり
じゃ。(行こうとする)

パパ
ゆうり
あの……

ゆうり
なに。

パパ
ゆうり
あたしは？ あの……どうしたらいいんでしょう？

ゆうり
さつき言ったじゃん。また後で迎えにくるから、ゆうりちゃん、ここで待っていてくれる？って。

ゆうり
はあ……。

かえで
パパ
ちよつと待って。……あんた、もしかして、迎えにくるつもりないでしょ。

かえで
パパ
なんでだよ。

かえで
パパ
そんな気がする、すごい勢いで。だいたいそのお金どうすんのさ。まさかお店に返すためにここへ来たわけじゃないでしょ。

かえで
パパ
どうだっかっていいだろ。おれ急いでるんだけど。

かえで
パパ
あ！ わかった。

かえで
パパ
なんだよ。

かえで
パパ
あんた、独り占めするつもりなんですよ。ここまでゆうりを使つといて、その金持ってっちやうんだ。

かえで
パパ
おめえに関係ないだろうが。

ゆうり
パパ
……。

ゆうり
パパ
ゆうり、お前、家に帰れ。

ゆうり
パパ
え？

ゆうり
パパ
警察で調べたらお前、家出人の捜索願が出てたぞ。連絡しといたから。もうすぐ警察が迎えに来る。

ゆうり
パパ
なんで？

ゆうり
パパ
大人しく家に帰れ。いい子だから。

ゆうり
パパ
……いやだ。帰りたくない。

パパ　わがまま言うな。まさか、本当におれと一緒に逃げるつもりだった？　そんなわけないじゃん。だれがお前と逃げるかつーの。
かえで　ひっどーい。
パパ　なんとでも言え。おれにはこの金が必要なんだよ。

パパが行こうとすると、そこに車のヘッドライトが。

パパ　うわ、なんだ！

大勢の声　ゆうりちゃん、かえでちゃん、私達が来たからにはもう安全だ！

かえで　あなたたちは、誰！？

大勢の声　私達は……

浩樹と武志　自宅警備隊だ！

ワゴンRから定員以上の人数が出てくる。
なぜか先生もいる。

先生　そしてここにいるのはその仲間たちだ。

まい　紹介がざっくりすぎる！

パパ　なんでお前がそこにいるんだよ。

先生　偶然だ！　わたしは左手ぶらぶら男だ！　作家希望、市内在住、独身！

まい　独り占めなんてさせるものか！　観念しろ！　さああんたたち、金を取り返せ！

全員がパパに襲いかかる。

パパ　ちよっと待ってちよっと待って。落ち着け。落ち着け。

騒ぎが落ち着いたら先生がパパのジャケットを着ている。

パパ
先生
なんでお前がそれ着てんだよ。

パパ
自分でもわかりません。

パパ
まい
（金の入ったカバンを抱きしめて）ここは話し合いで決めよう。暴力反対。
話し合いつてなに。

パパ
山分け。

山分け、という言葉に全員の緊張感がほぐれる。

まい
いくらくれるの。

パパ
50万ずつ。

全員
えー。

いちご
そんだけお金あるのに。

こはる
そうだよ。50万は少ない。

パパ
いくらなら納得するんだ。

ちえり
あたし、最低でも300万は欲しいんだけど。

パパ
300万は無理だー。残らないよ。俺の分が。

いちご
じゃ、山分けっていくらのもりだったんだ。

パパ
えー、30万。

まい
なんで減ってるんだよ！

先生
（ジャケットの内ポケットから何か取り出して見る）あ。
なんだよ。

先生
これ、パスポートだ。

こはる

こいつ……海外に逃げる気だ。

パパ

違う違う、そんなことしない。

先生

しかも、二つある。

ちえり

ちよつと（パスポートを取り上げて中身を見る）あんたこれ……嫁のじゃん。

全員

嫁がいたのか！

ちえり

おまえ、嫁と逃げるつもりかよ。

パパ

いや、あの。逃げるだなんてとんでもない。ちよつと海外旅行にね。家族で。

全員

家族？

まい

家族とは……大きく出やがったな……。

かえで

凶々しいねー。スカウトの分際で。

先生

（違うポケットからパスポートを取り出して）あー。まだまだあった。子供の分と、おばあちゃんの。

パパ

あ、それは嫁のお義母さん。

ちえり

三世代同居かよ……。

パパ

子供がまだ小さくてさ、それにお義母さんまで一緒だとき、海外旅行は金がかかっちゃってね。なかなか行

けなくて。

だから逃げるつもりなんて全然なくて。

まい

思ってたより小せえ男だな、こいつ。

ちえり

あんたの家族って、あんたがどうやって稼いでるか知ってるの？

パパ

知らないよ。何言ってるの。知るわけないじゃん。うちは普通の一般家庭なんだから。

全員

……普通の一般家庭。

パパ

わかった。100万でもいい。100万だけ置いてって。あとのお金はみんなにあげるから。持って逃げてよ。

だからお願い。ぼくのごときはそつとしといて。そんで100万円だけ置いてって。ぼくたち家族をハワイに行かせてください。ワイキキに……。

まい

……どうする？

すると、ゆうりがパパの側に近づいてきて。

ゆうり
パパ
ゆうり
ゆうり
ゆうり
ゆうり
ゆうり
ゆうり
ねえ、パパさん、おうちを買って、その家族と暮らすおうちの話だったんですか？
え？
あたしとこの場所でおうちの話したじゃないですか、あれってどういうつもりだったんですか？
え？ そんな話したっけ？
……覚えてないんだ。……あたしと一緒にしたおうちの話。
ごめん。……なんだっけ。

ゆうり、ゆっくりとパパの持っているカバンを開ける。

ゆうり
全員
うあー！（叫びながらバッグに詰まった金をわしづかみで空に投げる）
あー。

ゆうり、パパの制止を振り切ってカバンの中身をばらまく。
風が吹くとすごい量の札束が夜空に舞い上がる。

こはる
お前ら、拾えー！

札束が丘の上から街へと舞っていく。

麓から丘を見上げている智子。

智子
うわー。お札が舞ってるー。派手な金の使い方する人がいるもんだ。……すごい嫌な予感がするんだけど。

エピソード

ワゴンR、その横にまいとかえでと先生。
そして浩樹といちご。

まい、浩樹、いちごは旅に出ようとしている。

かえではまいの子どもを抱いている。

かえで 超かわいい。子どもいいですね。

まい いいよ。子どもは。なんだってできる気持ちになるよ。つか、（かえでと先生に）あんたたち、なんなの？

かえで え？

まい できてんの？

いちご そうそう、あたしも気になってた。

かえで できてないですよー。

いちご うそうそ。怪しい。

かえで 違うんですって。あたしのせいだから。先生の左腕がこんななっちゃったの。だから、罪滅ぼし？

先生 手伝ってくれてるんですよ。かえでちゃん。ぼく、もう一度作家の夢を追いかけてみる気になって。口述筆

記って言うんですか？

まい そういふの。口述筆記？

かえで 先生が口を使って、それをあたしが手でやってあげるんです。

まい 言い回しがおかしい。

ちえりがジョギング姿で現れる。

まい お。来てくれたんだ。

ちえり 一応。仲間だし。見送りくらいは。

まい ありがとう。

いちご すっごい。なんか本格的。スポーツマンみたい。

ちえり まあ。

まい あんた、大学どうするの？

ちえり 受けますよ。もちろん。

まい そっか。

かえり ちえり、お店変えたんだよね。すっごいらしい。噂聞くよ。指名の嵐。

まい へえ。すごいじゃん。どんな仕掛けがあるの？

ちえり 別に。毎日出るのをやめて、身体引き締めて、ちよつと、いろいろ工夫したらそうなたんですよ。たいした

ことやってないです。

まい へえ。

浩樹 そろそろフェリーの時間に間に合わないっすよ。(いちごと浩樹が車に乗り込む)

かえり あたし、まいさんたちいなくなったら寂しい。

まい 嬉しい事言ってくれるじゃん。

ちえり 向こう行っても頑張ってください。

まい あたしらは心配いらないよ。仕事決まってるし。普通の仕事だから稼ぎは悪いけどね。でもこいつらついて

くるって言うし、子どもも一緒だし。

ちえり はい。

浩樹 時間がやばいっす。ギリギリっす。

まい おう。(車に乗り込んで) じゃ、行くか！(カーステレオをつける)

ラジオの声 ……夜空から1万円札が降ってきた事件はまだまだ波紋を呼んでますね。それにしても、どこの物好きなんですかねえ。近隣の町一帯に1万円札をばらまいたりして。しかもまだ誰がやったことなのかはつきりしてないんですから、もしかしたら何かの事件と関わりのあるお金じゃないかなんて、噂は噂を呼んでいます。それではここで一曲お聞きいただきましょう。南手塚町のラジオネームラブライバーさんからのリクエスト、パフィーで愛のしるし。

「愛のしるし」が流れ始める。

いちご
全員

あ！ あたし、この歌好き。(間違った歌詞を口ずさむ)
ヒデキじゃねえよ、刺激だよ！

カーラジオの音楽。

三人の乗った車が出発する。

運転するまい、いちごと浩樹。愛のしるしを歌っている。

それぞれの日常。

音楽を聞きながら本を読んでいるちえり。

相変わらず携帯をついている武志、退屈そうにしているこはる。

そしてパパはその二人に何やら話をしている。

パソコンをつつくかえでと、その横に先生。

智子、頭を抱えながら電卓を叩く。

ゆうりは丘の上から街を見下ろしている。

それぞれの風景が重なって。

終。